



放送大学 アニュアルレビュー2018

The Open University of Japan Annual Review 2018



遠隔会議を併用した
研究室研究会



学位記授与式での第九演奏



広島学習センター面接授業
「魚の教養学」



福島学習センター面接授業
「初歩からのパソコン」



東京足立学習センター
「学びビアの縁側」



大阪学習センター文化祭
「グリーンコミュニケーション(麺打ち)」

学位記授与式

2019年3月23日(土)、2018年度学位記授与式を、東京・渋谷NHKホールにおいて挙行了。卒業証書・学位記授与の後、來生新学長による式辞、柴山昌彦文部科学大臣(代読:藤原誠文部科学事務次官)、石田真敏総務大臣(代読:奈良俊哉総務省大官房審議官)、佐々木二放送大学同窓会連合会会長からの祝辞に続き、学部卒業生総代日比百合花さん(東京渋谷学習センター)、修士課程修了生総代田中雄二さん(三重学習センター)、博士後期課程修了生総代森村繁晴さん(東京文京学習センター)による謝辞があった。その後学長表彰が行われ、全専攻または全コースを卒業した64名の『放送大学名誉学生』が表彰された。続いて、優れた教育活動を行った専任教員を、学生による授業評価や教員の推薦に基づき選考した『優秀授業賞』を加藤和弘教授・二河成男教授が、『教育功績賞』を滝浦真人教授が受賞したほか、『学長特別表彰』を宮野モモ子千葉学習センター所長が受賞した。2018年度の学部卒業生は5,988名、大学院修士課程修了生は329名、大学院博士後期課程修了生は7名であった。なお、今回は初めての試みとして、学位記授与式の模様を1時間半にわたって生中継したほか、学生有志を中心とした「大学は歌う」プロジェクトによるベートーヴェン第九「歓喜の歌」の合唱を行った。



CONTENTS

学長挨拶	2	国際交流の取り組み	20
特集	3	社会への貢献	22
オンライン授業	5	学習センターの活動、この1年	24
充実した教育内容	6	データで見る放送大学の概要	32
放送大学における研究	15		

【編集】

■放送大学アニュアルレビュー2018タスクグループ

生活と福祉/山内 豊明 教授	人間と文化/河原 温 教授	担当副学長/池田 龍彦
心理と教育/波田野 茂幸 准教授	情 報/広瀬 洋子 教授	(オブザーバー)
社会と産業/原田 順子 教授	自然と環境/松井 哲男 教授	■総務部広報課

「放送大学アニュアルレビュー2018」は、2018年4月～2019年3月の放送大学の活動を記録したものであり、本文に記載されている氏名・職名等は2018年度当時のものです。

Annual Review 2018の刊行に寄せて



2019年8月
学 長 新 生 来

2018年は放送大学の歴史的転換の年として記憶されるべき年である。放送大学は1983年の設置以来、一貫して、大学教育科目をテレビ・ラジオ放送の電波に乗せて教育を行う大学であった。放送法の規定の下で、放送大学の放送は大学の教育課程に位置づけられるものであることと、告知番組に限定された結果、その放送内容のほとんどは、大学設置基準に準拠した形式と内容を持つ、大学の授業であった。

放送大学を取り巻く社会環境の変化の中で、学生数の継続的かつ大幅な減少がここ10年来の放送大学の大きな課題であった。生涯学習に対する社会的な需要に、放送大学が過去30年余にわたって供給してきた教育サービスがうまく対応していないことが、このような現象を招いていることは明白である。このような認識の下で、過去にカリキュラムの改革、オンライン授業の開始等、授業改革を進めてきたが、学生数の減少、とりわけ新規入学者数の減少傾向に歯止めがかかる状況には至っていない。

このような中で、2018年10月からのBS常時マルチチャンネ

ル化を2017年度に意思決定したことを受けて、新たなチャンネルの性格付け、そこで放送するコンテンツの内容等の議論を重ね、2018年10月から、231チャンネルを生涯学習支援・社会教育チャンネルとして位置づけ(BSキャンパスex)、232チャンネルを従来通りの大学の授業チャンネル(BSキャンパスon)として位置づける新体制がスタートした。

231チャンネルは通学制大学の公開講座に匹敵するコンテンツ、すなわち大学設置基準の形式や内容にとらわれない、資格関連やさまざまなレベルの教養教育コンテンツを提供して、多様な生涯学習需要に応えることを意図したチャンネルであり、今後そのコンテンツの充実を図るべく努力を開始したところである。

もう一つの改革として、2018年度には「学習教育戦略研究所」を設置し、放送大学の社会的使命である生涯学習と大学教育の充実をいかに図るかを、さまざまな視点から教職員共同で研究する体制をスタートさせた。今後、この研究所において放送大学の経営に生かすうる研究成果を着実に生み出していかねばならないと考える。

特集

BSマルチチャンネル放送開始

2018年10月1日から全国で視聴できるBS放送(テレビ)で、BS231チャンネル(愛称:BSキャンパスex)、BS232チャンネル(愛称:BSキャンパスon)の2チャンネルによるマルチチャンネル放送を開始した。

生涯学習支援のチャンネル

『BSキャンパスex』(BS231ch)

従来の本学の教育を拡張(エクステンション)して、様々な学びの機会を提供する番組を放送



BSキャンパス
ex

BS放送による マルチチャンネル

BSキャンパス
on



テレビ授業チャンネル

『BSキャンパスon』(BS232ch)

本学が実施(オンキャンパス)している単位認定を前提とした授業番組を放送

生涯学習支援のチャンネル『BSキャンパスex』

BSキャンパスex(BS231ch)は、これまでの大学の教育・研究の成果を生かしながら、従来の大学教育の枠組みから離れて、最新の情報で生涯教育支援の多様な需要に弾力的に対応した番組を放送する。国内に広く開放されており、働くことと学ぶことを無理なく両立できる

放送というメディアにより、生涯学び続ける意欲を持つすべての人の学習を支援する。

また、本学の魅力、本学での学び方を紹介する告知番組を放送する。

授業チャンネル『BSキャンパスon』

BSキャンパスon(BS232ch)では、これまでと同様に、主に本学学生の単位取得を目的に、単位認定試験に向けて計画的に授業番組を放送する。また、BSラジオ(BS531ch)では、ラジオ授業チャンネルを放送している。

学習教育戦略研究所の設置

2018年4月1日、学習や教育、放送大学学園の経営について、教員と事務職員とが協働で課題解決に向けた活動を行う新しい形の研究組織として、「学習教育戦略研究所」を設置した。本学が保有する膨大な学習・教育情報の分析等を通じて、最先端のICT技術も含め、より

効果的な学習・教育方法の調査・研究や、本学園の経営改善に資する各種情報の収集・分析、それら成果の活用等を行うことにより、変化する社会ニーズへ迅速に対応することを目的としている。

組織

学習教育戦略研究所は、教職協働による研究プロジェクトの遂行を積極的に奨励しており、所長の下に研究部門長と経営戦略部門長を置き、教員と事務組織が一体となった共同体制により構築されている。

また、「学習教育戦略研究所運営委員会」を置き、重点研究課題の策定や教職員から提案された研究課題の審査・決定などを行うこととしている。

2018年度には、11件の研究課題を採択した。

研究課題

1	生涯学習短期プログラムを活用した企業—大学間連携教育と他大学との連携教育の可能性を探る基礎研究	7	リメディアル数学の開発および改善に関する研究
2	ハイブリッド型授業評価のためのチェックリストの開発と活用	8	技術者に対する初期専門能力開発教育と放送大学授業とのマッチングに関する調査研究
3	学習センターの将来機能に関する分析	9	実験を伴う研究指導のためのクラウド連携インタフェース利用の実践
4	オンライン授業科目の学修時間に関する調査研究	10	放送大学博物館設立・「博物館実習」科目新設に向けての予備的研究
5	放送大学における研究倫理教育のあり方とその可能性	11	主体的学習を支援する学習到達度のオンデマンド把握法の開発研究
6	技術士の継続研鑽制度に関する放送大学の協力可能性について		

「ラジオ科目」への「字幕付与」実験

ラジオ科目に字幕??? 確かにラジオには字幕は載せられない。しかし、ラジオ科目のWeb配信には字幕や図表などの画像も載せることができ、聴覚障がい者、高齢者、外国人等の学習に大いに役立つ。

2016年度に障害者差別解消法が施行され、本学では、聴覚障がいがある学生の情報保障のみならず、一般の学生の学習効果向上のため、放送授業への字幕付与が現在進められている。

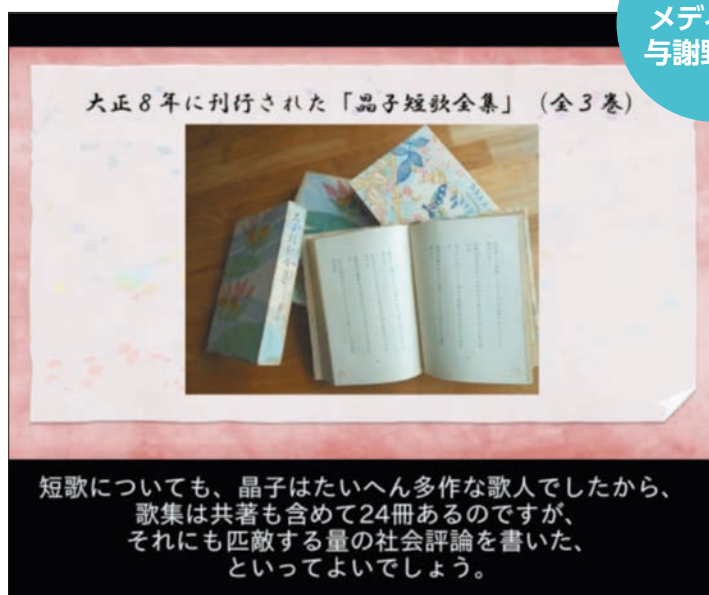
テレビ科目では既に6割以上の科目で字幕付与が行われ、一部制約がある科目を除き、全科目に字幕を付与する計画である。

一方、ラジオ科目は、2015年度から、字幕・静止画を付与したコンテンツを学生専用Webサイトから実験配信している。2018年現在では、学部4科目・大学院3科目・特別講義2番組がこの方式で視聴できる。

こうした試行錯誤を経て、2018年度には、経常予算でラジオ科目6科目に字幕を付与し、2019年度より視聴可能となる。今後は、新技術の活用等含め、より適確な字幕付与方法の研究を進め、字幕付与に必要な労力や費用の低減を図ることで、より多くのラジオ科目への字幕付与の可能性を探っていきたい。

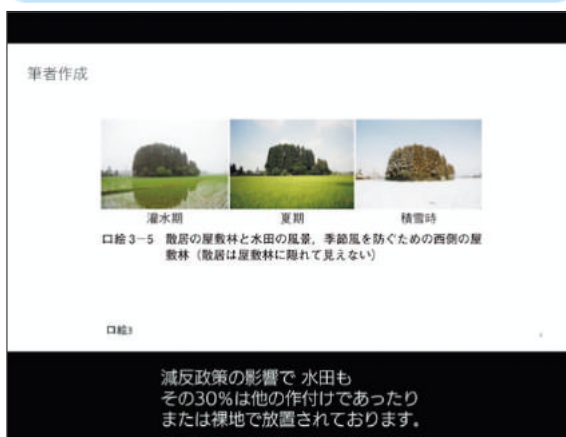
特別講義

メディアと
与謝野晶子



実験配信中のラジオ科目インターネット配信画面におけるスライド及び字幕①

第12回 都市のヒートアイランド現象とその対策



実験配信中のラジオ科目インターネット配信画面におけるスライド及び字幕②

オンライン授業

インターネットによる授業

2018年度は第1学期に教養学部5科目、大学院修士課程7科目を開講した。また、2019年度第1学期に開講の教養学部5科目、大学院修士課程5科目を制作した。

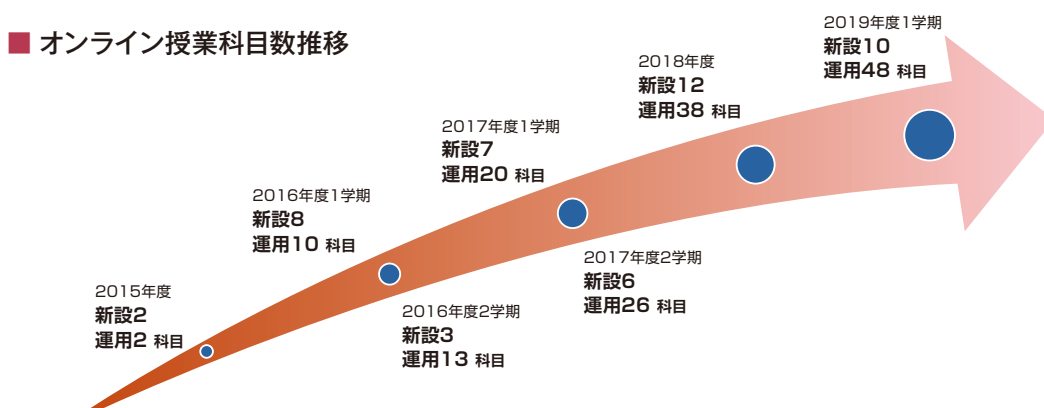
2018年度教養学部 新規開設科目

コース		科目名	単位数
基盤科目	基盤科目	日本語リテラシー演習('18)	1単位
人間と文化	専門科目	博物館資料論('18)	2単位
生活と福祉	導入科目	がんとともに生きる('18)	1単位
情報	導入科目	情報ネットワーク('18)	2単位
生活と福祉	総合科目	地域包括ケアシステムと在宅医療('18)	1単位

2018年度大学院修士課程 新規開設科目

プログラム		科目名	単位数
生活健康科学		生活環境情報学基礎演習('18)	2単位
自然環境科学		先端技術のための現代物理学('18)	2単位
自然環境科学		現代生物科学('18)	2単位
自然環境科学		宇宙、地球、そして人類('18)	2単位
自然環境科学		計算で紐解く物質科学・環境科学('18)	2単位
情報学		知能システム論('18)	2単位
情報学		情報化社会とボランティア活動('18)	2単位

■ オンライン授業科目数推移



	2015			2016			2017			2018	2019
	1学期	2学期	(計)	1学期	2学期	(計)	1学期	2学期	(計)	1学期	1学期
制作科目数 (コマ数)	8 (92)	3 (24)	11 (116)	7 (98)	6 (62)	13 (160)	12 (159)	—	12 (159)	10 (136)	14 (129)
運用科目数 (コマ数)	2 (16)	—	2 (16)	10 (108)	3 (24)	13 (132)	20 (230)	6 (62)	26 (292)	38 (451)	48 (587)

充実した教育内容

テレビ・ラジオによる授業

放送授業

放送授業は、面接授業、オンライン授業と並び、本学の教育の中心に位置づけられるものである。

2018年度第2学期(2018年10月～2019年3月)には、学部278科目、大学院59科目の合計337科目を開講しており、原則として4年間(毎年2学期ずつ、合計8学期間)放送している。したがって、全開設科目のおよそ4分の1ずつが、毎年入れ替わる。

2018年度の新規開設科目は、学部64科目(テレビ

33科目、ラジオ31科目)、大学院8科目(ラジオ8科目)の合計72科目である。

2018年度全開設科目数

	第1学期		第2学期	
	テレビ科目	ラジオ科目	テレビ科目	ラジオ科目
学部	156	122	156	122
	278		278	
大学院	8	51	8	51
	59		59	
合計	164	173	164	173
	337		337	

2018年度新規開設科目一覧(学部) (TV=テレビ、R=ラジオ)

科目区分	科目名称	メディア
基盤科目	運動と健康('18)	TV
	初歩からの数学('18)	TV
	身近な統計('18)	TV
基盤科目(外国語)	耳から学ぶ英語('18)	R
	フランス語I('18)	TV
	フランス語II('18)	R
	中国語I('18)	TV
	中国語II('18)	R
生活と福祉	生活者のための不動産学への招待('18)	TV
	導入科目	
	人体の構造と機能('18)	TV
	感染症と生体防御('18)	R
	食と健康('18)	TV
	リスクコミュニケーションの現在('18)	R
	専門科目	
	看護管理と医療安全('18)	R
	地域福祉の現状と課題('18)	TV
	社会福祉実践の理論と実際('18)	R
総合科目		
レゾリエンスの諸相('18)	TV	
死生学のフィールド('18)	R	
心理と教育	戦後日本教育史('18)	R
	導入科目	
	心理と教育へのいざない('18)	R
	心理学概論('18)	TV
地域コミュニティと教育('18)	TV	
現代の家庭教育('18)	R	
生理心理学('18)	TV	
社会と産業	社会統計学入門('18)	R
	導入科目	
	法学入門('18)	R
	経営学概論('18)	R
	都市と地域の社会学('18)	R
	都市と農山村からみる身近な経済('18)	R
	グローバル経済史('18)	TV
	市民生活と裁判('18)	TV
	行政法('18)	R
	専門科目	
	著作権法('18)	R
	現代の国際政治('18)	TV
	管理会計('18)	R
フードシステムと日本農業('18)	R	
地球温暖化と社会イノベーション('18)	TV	
住まいの環境デザイン('18)	TV	

科目区分	科目名称	メディア
人間と文化	導入科目	
	哲学・思想を今考える('18)	R
	日本文学における古典と近代('18)	R
	新しい言語学('18)	R
	現代人文地理学('18)	TV
	総合人類学としてのヒト学('18)	R
	現代の危機と哲学('18)	R
	日本仏教を捉え直す('18)	R
	日本美術史の近代とその外部('18)	TV
	東南アジアの歴史('18)	R
考古学('18)	TV	
『方丈記』と『徒然草』('18)	TV	
文学批評への招待('18)	R	
博物館情報・メディア論('18)	TV	
日常生活のデジタルメディア('18)	TV	
情報・メディアと法('18)	R	
情報	専門科目	
	データ構造とプログラミング('18)	TV
	コンピュータとソフトウェア('18)	TV
	デジタル情報の処理と認識('18)	TV
	コンピュータと人間の接点('18)	TV
メディア論('18)	TV	
情報セキュリティと情報倫理('18)	TV	
自然と環境	導入科目	
	初歩からの生物学('18)	TV
	初歩からの化学('18)	TV
	現代を生きるための化学('18)	R
専門科目		
太陽と太陽系の科学('18)	TV	
解析入門('18)	R	

2018年度新規開設科目一覧(大学院)

プログラム名	科目名称	メディア
生活健康科学	福祉政策の課題('18)	R
	生活変動と社会福祉('18)	R
人間発達科学	生涯学習の新たな動向と課題('18)	R
臨床心理学	教育心理学特論('18)	R
臨床心理学	臨床心理学研究法特論('18)	R
社会経営科学	都市社会構造論('18)	R
社会経営科学	人的資源管理('18)	R
情報学	情報学の技術('18)	R

インターネットラジオ(radiko.jp)

2012年度から、ラジオ科目をパソコンやスマートフォンなどで聴取できる「radiko」(ラジオ)も利用可能となっている。

特別講義

特別講義では、各学問分野の第一人者が、その学問について深く掘り下げて講義を行っている。

2018年度は新規開設9講義(テレビ5講義、ラジオ4講義)を含む、全84講義(テレビ34講義、ラジオ50講義)の特別講義を放送した。

2018年度新規開設特別講義

講義題目名	出演講師 *開設当時の肩書	メディア
『おくのほそ道』の真髓～芭蕉自筆本に基づく新研究～	放送大学教授 魚住 孝至	TV
笑いの哲学～コトで分析～	日本笑い学会会長・関西大学人間健康学部教授 森下 伸也	TV
年縞が語る地球環境史	国際日本文化研究センター名誉教授・ふじのくに地球環境史ミュージアム館長 安田 喜憲	TV
共に生きる社会を目指して～「医療的ケア児」をどう支えるのか～	ひばりクリニック院長・NPO法人うりずん理事長 高橋 昭彦	TV
ブラックホール～ばく大なエネルギーの発生源～	東京大学教授 牧島 一夫 東京大学特別栄誉教授 梶田 隆章 放送大学茨城学習センター元所長 横沢 正芳	TV
通信教育で人生が変わった～女優・作家 中江有里～	女優・作家 中江 有里	R
病・人・社会(1)～統合失調症が教えること～	東洋大学教授 白石 弘巳	R
病・人・社会(2)～人を支援する人が受け取るもの～	東洋大学教授 白石 弘巳	R
天文学を魅力的に伝えたい	国立天文台准教授 縣 秀彦	R

2018年度放送の特別講義

講義題目名	出演講師 *開設当時の肩書	メディア
『おくのほそ道』の真髓～芭蕉自筆本に基づく新研究～	放送大学教授 魚住 孝至	TV
笑いの哲学～コトで分析～	日本笑い学会会長・関西大学人間健康学部教授 森下 伸也	TV
年縞が語る地球環境史	国際日本文化研究センター名誉教授・ふじのくに地球環境史ミュージアム館長 安田 喜憲	TV
第九を楽しむ 放送大学・ベートーヴェン交響曲第九演奏会 ～東京藝術大学奏楽堂～	千葉大学教授・作曲家 山本 純ノ介 横浜国立大学名誉教授 茂木 一衛	TV
文人精神の系譜～与謝蕪村から吉増剛造まで～	恵泉女学園大学特任教授・詩人 林 浩平	TV
森鷗外と明治の青春～『青年』を中心に～	放送大学教授 島内 裕子 森鷗外記念会顧問・跡見学園理事長 山崎 一穎	TV
古代アンデス文明と日本人	放送大学特任教授 稲村 哲也 東京大学名誉教授 大貫 良夫	TV
薩摩硫黄島の熊野三山と『平家物語』	國學院大學教授 野中 哲照	TV
アクティブシニアのICT活用生活	同志社大学客員教授 関根 千佳 放送大学教授 広瀬 洋子	TV
公共人類学～人類学の社会貢献～	東京大学名誉教授・帝京平成大学教授 山下 晋司	TV
伝承芸能の魅力～薩摩川内市の東郷文弥節人形浄瑠璃～	鹿児島大学名誉教授 中山 右尚 國學院大學教授 野中 哲照	TV
外邦図～軍事情報から近代資料へ～	大阪大学名誉教授・大阪観光大学教授 小林 茂	TV
共に生きる社会を目指して～「医療的ケア児」をどう支えるのか～	ひばりクリニック院長・NPO法人うりずん理事長 高橋 昭彦	TV
地域包括ケアの理論と実践	慶應義塾大学名誉教授 田中 滋 東京大学特任教授 辻 哲夫 放送大学教授 田城 孝雄	TV
セクシュアル・マイノリティとしての幸せな暮らし～本当は豊かな性のあり方～	お茶の水女子大学准教授 石丸 径一郎	TV
女性アスリートの育成と支援、その課題	順天堂大学大学院教授 小笠原 悦子	TV
自然災害では死なせない～ある災害社会工学者の格闘～	東京大学大学院特任教授 片田 敏孝	TV
東日本大震災復興支援と地域福祉	日本福祉大学教授 平野 隆之 日本福祉大学教授 原田 正樹	TV
未来への教訓～検証・福島第一原発事故～	社会技術システム安全研究所所長 田辺 文也	TV
災害に安全なまちとすまい	東京工業大学名誉教授 和田 章	TV
ブラックホール～ばく大なエネルギーの発生源～	東京大学教授 牧島 一夫 東京大学特別栄誉教授・東京大学宇宙線研究所長 梶田 隆章 放送大学茨城学習センター元所長 横沢 正芳	TV
ノーベル賞科学者の軌跡Ⅰ 私が感化された教育とは	名古屋大学特別教授・名古屋大学素粒子宇宙起源研究機構長 益川 敏英 東京大学特別栄誉教授・東京大学宇宙線研究所長 梶田 隆章	TV
ノーベル賞科学者の軌跡Ⅱ どう鍛えられ研究を深めたか	名古屋大学特別教授・名古屋大学素粒子宇宙起源研究機構長 益川 敏英 東京大学特別栄誉教授・東京大学宇宙線研究所長 梶田 隆章	TV
トップアスリートのメンタルに学ぶ	スポーツメンタルトレーニング上級指導士・ソウル五輪シクロデュエット銅メダリスト 田中 ウルヴェ 京	TV
エンジニアが映像で挑む!～トップアスリート強化～	国立スポーツ科学センタースポーツ科学研究部 専門研究員 三浦 智和	TV
イギリスの科学教育に学ぶ	東京工業大学名誉教授 市村 禎二郎 東京工業大学名誉教授・津田塾大学客員教授 酒井 善則	TV
正確な時計は基礎科学を開く窓	国立研究開発法人情報通信研究機構理事 細川 瑞彦 国立研究開発法人情報通信研究機構時空標準研究室長 花土 ゆう子	TV
ゆるくて楽しい歩行圏コミュニティ～富山市・高齢社会デザイン開発プロジェクト～	富山大学大学院准教授 中林 美奈子 放送大学教授 田城 孝雄	TV

2018年度放送の特別講義

講義題目名	出演講師 *開設当時の肩書	メディア
海底に探るエネルギー資源～日本海・メタンハイドレート～	明治大学研究・知財戦略機構ガスハイドレート研究所代表 松本 良	TV
ヒマラヤ高所に生きる人々の生活と健康～高所適応とグローバル化による攪乱～	放送大学特任教授 稲村 哲也 京都大学連携教授 奥宮 清人	TV
脳波で動く1/f ゆらぎ癒しロボット	茨城大学名誉教授 白石 昌武	TV
遷移金属触媒の魔法の力 ～サステイナブルな21世紀への鍵～	パドュー大学特別教授 根岸 英一	TV
ウナギ 大回遊の謎を追う	日本大学教授 塚本 勝巳	TV
自分がわかる細胞健康科学～細胞・身体連携力学応答機構とスローエクササイズ効果～	東京大学名誉教授 跡見 順子	TV
通信教育で人生が変わった～女優・作家 中江有里～	女優・作家 中江 有里	R
箏曲の世界 ～宮城道雄の残したモノ～	元東京藝術大学教授・学術博士 安藤 政輝	R
オリンピックボランティアの世界 ①誕生と貢献の歴史	早稲田大学スポーツビジネス研究所招聘研究員 市居 愛	R
オリンピックボランティアの世界 ②東京で夢をかなえる	早稲田大学スポーツビジネス研究所招聘研究員 市居 愛	R
編集者漱石 ①編集者子規	大阪芸術大学教授 長谷川 郁夫 東京大学名誉教授 草光 俊雄	R
編集者漱石 ②朝日新聞の時代	大阪芸術大学教授 長谷川 郁夫 東京大学名誉教授 草光 俊雄	R
人間発達と初期環境	お茶の水女子大学名誉教授 藤永 保	R
私、あきらめない!!～車いす女優・萩生田千津子の原点～	女優 萩生田 千津子	R
私、舞台を降りない!!～車いす女優・萩生田千津子の世界～	女優 萩生田 千津子	R
メディアと与謝野晶子	歌人 松村 由利子 放送大学教授 広瀬 洋子	R
心に響く音文化(おんぶんか)第1回「民族音楽学への招待」	兵庫教育大学名誉教授 水野 信男	R
心に響く音文化(おんぶんか)第2回「中東の音文化」	兵庫教育大学名誉教授 水野 信男	R
幻の私小説家・藤澤清造	作家 西村 賢太	R
つなぐ言葉としての方言ー3.11被災地からー	東北大学大学院教授 小林 隆	R
音楽表現と情報環境	音楽家 タケカワ ユキヒデ	R
ことばの礼儀作法 第1回「日常会話の点検(前編)」	元NHKエグゼクティブアナウンサー 梅津 正樹	R
ことばの礼儀作法 第2回「日常会話の点検(後編)」	元NHKエグゼクティブアナウンサー 梅津 正樹	R
口語で読み解く「出雲神話」第1回「スサノヲの世界」	千葉大学名誉教授 三浦 佑之	R
口語で読み解く「出雲神話」第2回「オホクニヌミの世界」	千葉大学名誉教授 三浦 佑之	R
御国言葉で「よきたより」～心に響く聖書の和訳を求めて～	医師 山浦 玄嗣	R
病・人・社会(1)～統合失調症が教えること～	東洋大学教授 白石 弘巳	R
病・人・社会(2)～人を支援する人が受け取るもの～	東洋大学教授 白石 弘巳	R
困ったら、頼っていいんだよ～孤立する子どもたちに私たちができること～	NPO法人3keys代表理事 森山 誉恵	R
急増するうつ病:人間の孤独とコミュニティの視点から	放送大学名誉教授 宮本 みち子 放送大学教授 石丸 昌彦 放送大学教授 広瀬 洋子	R
インド・現代世界の縮図ー経済成長と民主主義ー	元アジア経済研究所地域研究部長 佐藤 宏	R
医療・健康で地域をつなぐ	大阪産業大学教授 佐藤 真治	R
現代社会におけるイノベーションの意味	元早稲田大学大学院教授 吉川 智教	R
ライフ・イノベーションからの利益の帰属と倫理	政策研究大学院大学教授 隅藏 康一	R
終活学 満足して人生を終える	東京医科大学客員教授 長尾 和宏	R
江戸農書からみる現代農業と日本社会	大阪経済大学学長 徳永 光俊	R
障害者差別解消法と差別を解消するための研修について	放送大学教授 広瀬 洋子 国際協力機構国際協力専門員 久野 研二 日本障害者リハビリテーション協会研修課課長 奥平 真砂子	R
オーラル・ヒストリーの課題と展望	放送大学客員教授 御厨 貴 東京大学先端科学技術研究センター教授 牧原 出	R
「まぜこぜ社会」が世界を変える	女優・一般社団法人Get in touch理事長 東 ちづる 放送大学客員教授 井上 洋士	R
患者とともに生きる医療	東京大学名誉教授・三井記念病院院長 高本 眞一	R
幕末の日本人が見たアメリカ～万延元年遣米使節の異文化理解～	大正大学名誉教授 鈴木 健次	R
東日本大震災からの復興に携わってー復興構想会議を中心にー	神戸大学名誉教授 五百旗頭 真	R
記憶を記録に／津波で失われた写真の回収、修復、保存、返還作業	放送大学名誉教授・国際政治学者 高橋 和夫	R
日本型近代家族	武蔵大学教授 千田 有紀	R
科学技術倫理と著作権	放送大学教授 児玉 晴男	R
原子力情報の公開と情報公開法	獨協大学法科大学院特任教授 三宅 弘	R
天文学を魅力的に伝えたい	国立天文台准教授 縣 秀彦	R
ヒューマンインタフェース技術のタネは日常生活のなかにある	放送大学名誉教授 黒須 正明	R
食の安全と環境汚染物質～メチル水銀を例に～	内閣府食品安全委員会委員長 佐藤 洋	R
脳と心ー分子生物学者がみた精神医学ー①部品の科学と全体としての脳	東京都医学総合研究所 病院等連携研究センター長 糸川 昌成	R
脳と心ー分子生物学者がみた精神医学ー②家族の旅から回復を体験すること	東京都医学総合研究所 病院等連携研究センター長 糸川 昌成	R
ネアンデルタール人はなぜ滅びたのか～交替劇プロジェクトの探究～	高知工科大学名誉教授 赤澤 威	R
物理学における対称性とその破れ	高エネルギー加速器研究機構特別名誉教授 小林 誠	R
岡潔の生涯と学問	元九州大学教授 高瀬 正仁	R
放射線はどうして怖いのか、怖くないのか	日本医科大学教授 太田 成男 放送大学名誉教授 濱田 嘉昭	R
漢詩をうたう	和光大学講師 荘 魯迅	R

インターネット配信

2007年度から、在学生用ホームページ(システムWAKABA)で、放送授業のインターネット配信(オンデマンド)を開始した。2018年度は、一部科目を除くテレビ科目と全てのラジオ科目をインターネット配信している。2018年度の配信科目数は、テレビ168科目、ラジオ178

科目、特別講義83講義である。

2018年度のインターネット配信科目数

	テレビ	ラジオ
放送授業	168	178
特別講義	33	50
合計	201	228

寄附科目

本学では、様々な機関からの支援を受け、社会の要請に応じた寄附科目を開設している。2018年度には、3科目の寄附科目を放送した。

2018年度開設寄附科目一覧

科目名	寄附団体名	メディア
著作権法('18)	日本音楽著作権協会(JASRAC)	R
現代の内部監査('17)	日本内部監査協会	TV
社会と銀行('10)('14)	全国銀行協会	TV

対面による授業

面接授業(スクーリング)

面接授業は、放送授業、オンライン授業とともに本学の教育の中心に位置づけられるものであり、全国50カ所の学習センターと7カ所のサテライトスペースで開講している。2018年度は、3,274科目(1学期1,627科目、2学期1,647科目)を開講している。

本学の専任教員や地元の大学教員等による対面での授業であり、教員と学生の交流だけでなく、学生同士の出会い、ともに学ぶ楽しさを共有できる機会ともなっている。

授業内容は、教養学部という特性に応じた幅広い学問分野に富んでおり、授業形態も通常の講義形式だけでなく、実験やフィールドワークなど多彩な形態で開講している。

また、単独の学習センターのみの開講だけでなく、各地域の特色を生かしたテーマの下でブロック間の学習センターが連携し、リレー形式でも開講した。

2014年度から、入学生も出願手続きの際、一定の条件を満たせば、入学学期当初から面接授業を登録申請できるよう制度を改正した。

さらに、学生ニーズの高い認定心理士資格取得に必要な「心理学実験科目」を、東京文京学習センターにおいて連日授業を開設する特別開設を開始している。

このように意欲ある学生に、できるだけ多くの学習機会を提供できるよう常に制度の見直し、学生サービスの向上を図っている。



秋田学習センター
「工芸ガラスを知り制作体験する」



新潟学習センター
「海洋生物の多様性と適応変化(佐渡)」

オープンコースウェア

オープンコースウェア(OCW)とは「大学で正規に提供された講義とその関連情報のインターネット上での無償公開活動」のことである。

学びたい人すべてがいつでも学べる「開かれた大学教育」を目指して設置された本学は、オープンコース

ウェアの理念に賛同し、2009年日本オープンコースウェアコンソーシアムに正会員として加盟した。本学の放送授業は全部で約330科目あり、2014年度からはほとんどの授業科目について、1回または全15回をインターネットで無償公開している。

2018年度オープンコースウェア科目(全15回分を公開)一覧

テレビ授業科目		ラジオ授業科目	
科目名	講師	科目名	講師
地域コミュニティと教育('18)	玉井 康之/夏秋 英房	看護管理と医療安全('18)	大島 弓子/飯島 佐知子
博物館情報・メディア論('18)	稲村 哲也/近藤 智嗣	日本仏教を捉え直す('18)	末木 文美士/頼住 光子
太陽と太陽系の科学('18)	谷口 義明/吉川 真	現代を生きるための化学('18)	橋本 健朗/藤野 竜也
コンピュータとソフトウェア('18)	辰己 丈夫/中谷 多哉子	解析入門('18)	河添 健
地球温暖化と社会イノベーション('18)	六川 修一/向井 人史	心理と教育へのいざない('18)	田中 統治/向田 久美子
住まいの環境デザイン('18)	梅干野 晁/田中 稲子	福祉政策の課題('18)	大曾根 寛/金川 めぐみ
人体の構造と機能('18)	坂井 建雄/岡田 隆夫	情報学の技術('18)	中谷 多哉子/辰己 丈夫
初歩からの化学('18)	安池 智一/鈴木 啓介	睡眠と健康('17)	宮崎 総一郎/林 光緒
レジリエンスの諸相('18)	奈良 由美子/稲村 哲也	環境問題のとりえ方と解決方法('17)	岡田 光正/藤江 幸一
疾病の成立と回復促進('17)	岡田 忍/佐伯 由香	日本文学の名作を読む('17)	島内 裕子/島内 景二
現代社会の児童生徒指導('17)	古賀 正義/山田 哲也	線型代数学('17)	隈部 正博
家族と高齢社会の法('17)	川島 志保/関 ふ佐子	生活リスクマネジメント('17)	奈良 由美子
現代の内部監査('17)	齋藤 正章/蟹江 章	音楽・情報・脳('17)	仁科 エミ/河合 徳枝
日本の古代中世('17)	佐藤 信/近藤 成一	看護学概説('16)	井出 訓/井上 洋士
コンピュータの動作と管理('17)	葉田 善章	社会保険のしくみと改革課題('16)	田中 耕太郎
問題解決の数理('17)	大西 仁	エントロピーからはじめる熱力学('16)	安池 智一/秋山 良
物理の世界('17)	岸根 順一郎/松井 哲男	アルゴリズムとプログラミング('16)	鈴木 一史
Walking with Writers('16)	井口 篤/ ステュウット・ヴァーナム・アットキン	CGと画像合成の基礎('16)	浅井 紀久夫
データの分析と知識発見('16)	秋光 淳生	生活経済学('16)	重川 純子
ユーザ調査法('16)	黒須 正明/高橋 秀明	政治学へのいざない('16)	御厨 貴/山岡 龍一
社会福祉への招待('16)	岩田 正美/村田 文世	音を追究する('16)	大橋 理枝/佐藤 仁美
世界文学への招待('16)	宮下 志朗/小野 正嗣	精神医学特論('16)	石丸 昌彦/広瀬 宏之
ダイナミックな地球('16)	大森 聡一/鳥海 光弘	計算論('16)	隈部 正博
入門微積分('16)	石崎 克也	データベースと情報管理('16)	柳沼 良知/三輪 眞木子
ヨーロッパの歴史I('15)	草光 俊雄/甚野 尚志	道を極める—日本人の心の歴史('16)	魚住 孝至
量子と統計の物理('15)	米谷 民明/岸根 順一郎	教育学入門('15)	岡崎 友典/永井 聖二
Webのしくみと応用('15)	森本 容介/伊藤 一成	高齢期の生活と福祉('15)	山田 知子/片桐 由喜
環境の可視化('15)	梅干野 晁/中村 恭志	日本の教育改革('15)	小川 正人/岩永 雅也
食健康科学('15)	小城 勝相/清水 誠	韓国朝鮮の歴史('15)	吉田 光男/井上 直樹
場と時間空間の物理('14)	米谷 民明/岸根 順一郎	自然言語処理('15)	黒橋 禎夫
		健康科学('15)	田城 孝雄/星 旦二
		数理学('15)	石崎 克也
		コンピューティング('15)	川合 慧/萩谷 昌己
		リスク社会のライフデザイン('14)	宮本 みち子/岩上 真珠
		社会心理学('14)	森 津太子/大江 朋子

教育

2018年度オープンコースウェア科目(特別講義)一覧

テレビ特別講義		ラジオ特別講義	
科目名	講師	科目名	講師
『おくのほそ道』の真髓～芭蕉自筆本に基づく新研究～	魚住 孝至	通信教育で人生が変わった ～女優・作家 中江有里～	中江 有里
笑いの哲学～コトで分析～	森下 信也	病・人・社会(1)～統合失調症が教えること～	白石 弘巳
年縞が語る地球環境史	安田 喜憲	病・人・社会(2)～人を支援する人が受け取るもの～	白石 弘巳
第九を楽しむ 放送大学・ベートーヴェン交響曲第九演奏会 ～東京藝術大学楽奏堂～	山本 純ノ介/茂木 一衛	天文学を魅力的に伝えたい	縣 秀彦
文人精神の系譜—与謝蕪村から吉増剛造まで—	林 浩平	箏曲の世界 ～宮城道雄の残したもの～	安藤 政輝
ノーベル賞科学者の軌跡 I 私が感化された教育とは	益川 敏英/梶田 隆章	困ったら、頼っていいんだよ ～孤立する子どもたちに私たちができること～	森山 誉志
ノーベル賞科学者の軌跡 II どう鍛えられ研究を深めたか	益川 敏英/梶田 隆章	急増するうつ病:人間の孤独とコミュニティの視点から インド・現代世界の縮図 —経済成長と民主主義—	宮本 みち子/石丸 昌彦
森鷗外と明治の青春—「青年」を中心に—	島内 裕子/山崎 一穎	医療・健康で地域をつなぐ	佐藤 真治
エンジニアが映像で挑む!～トップアスリート強化～	三浦 智和	現代社会におけるイノベーションの意味	吉川 智教
イギリスの科学教育に学ぶ	市村 禎二郎/酒井 善則	ライフ・イノベーションからの利益の帰属と倫理	隅藏 康一
正確な時計は基礎科学を開く窓	細川 瑞彦/花土 ゆう子	オリンピックボランティアの世界①誕生と貢献の歴史	市居 愛
ゆるくて楽しい歩行圏コミュニティ ～富山市・高齢社会デザイン開発プロジェクト～	中林 美奈子/田城 孝雄	オリンピックボランティアの世界②東京で夢をかなえる	市居 愛
		編集者漱石①編集者子規	長谷川 郁夫/草光 俊雄
		編集者漱石②朝日新聞の時代	長谷川 郁夫/草光 俊雄
		終活学 満足して人生を終える	長尾 和宏
		江戸農書からみる現代農業と日本社会	徳永 光俊
		ヒューマンインタフェース技術のタネは 日常生活のなかにある	黒須 正明
		食の安全と環境汚染物質～メチル水銀を例に～	佐藤 洋
		脳と心-分子生物学者がみた精神医学- ①部品の科学と全体としての脳	糸川 昌成
		脳と心-分子生物学者がみた精神医学- ②家族の旅から回復を体験すること	糸川 昌成

誰もが心地よく学べるために

特別な支援が必要な学生への学習支援

本学では、いかなる学生に対しても学習機会が阻害され不利益が生じることのないよう、様々な学習支援体制の整備を進めている。例えば、聴覚障がいがある学生への支援としてテレビ授業科目における字幕番組を提供している。2018年度第2学期に字幕を付して放送を行った授業は107科目あり、これは全テレビ科目の約63%に当たる。特別講義についても34科目全てに字幕を付して放送を行った。また、インターネット配信では、上記字幕付きテレビ科目の配信を行った他、

7ラジオ科目・2ラジオ特別講義で字幕付加実験を行った。

さらに、単位認定試験時には、ハンディキャップの程度に応じて、別室受験、試験時間の延長等の特別措置を講じている。例えば、2018年度第2学期単位認定試験における音声出題の対象科目数は126科目で、対象となった学生数は延べ188名であった。また、点字での出題対象科目数は77科目であり、対象となった学生数は延べ110名であった。

科目群履修認証制度(放送大学エキスパート)の展開

本学では、2006年度から独自の制度として、科目群履修認証制度(放送大学エキスパート)を導入した。これは本学が指定する特定の授業科目群を履修した学生に対して、ある分野に目的・関心を持ち、そのための学習を体系的に行ったことを証明するものである。その後、2007年に学校教育法が改正され、新たに大学等に「履修証明制度」が規定されたことを機に、2008年度からは、この

「履修証明制度」に対応するものとして再スタートしている。

当初10プランで始まった本制度は、その後、年々新しいプランを開設し、2018年度は2プランを追加した。

2019年3月31日までの累計認証取得件数は25,142件にのぼっており、学生の修学目標の一つとして定着していることがわかる。

2018年度認証プランと認証状取得者数(2019年3月31日現在)

認証プラン名	認証状の名称	認証状取得者数	認証プラン名	認証状の名称	認証状取得者数
1 健康福祉指導プラン	健康福祉運動指導者	2,584	17 生命科学プラン	生命人間科学	828
2 福祉コーディネータプラン	福祉コーディネータ	2,416	18 環境科学プラン	環境科学の基礎	722
3 社会生活企画プラン	社会生活プランナー	1,260	19 社会数学プラン	数学と社会	382
4 食と健康アドバイザープラン	食と健康アドバイザー	764	20 エネルギー・環境研究プラン※	エネルギー環境政策論	313
5 心理学基礎プラン	心理学基礎	3,413	21 芸術系博物館プラン	芸術系博物館活動支援	1,205
6 臨床心理学基礎プラン	臨床心理学基礎	1,828	22 歴史系博物館プラン	歴史系博物館活動支援	1,413
7 社会探求プラン	現在社会の探求	586	23 自然系博物館プラン	自然系博物館活動支援	553
8 市民活動支援プラン	市民政策論	609	24 工学基礎プラン	工学基礎	333
9 実践経営学プラン※	経営の理解	585	25 人にやさしいメディアデザインプラン	人にやさしいメディアのデザインプラン	109
10 ものづくりMOTプラン※	ものづくりMOT(技術経営)を学ぶ	334	26 計算機科学基礎プラン	計算機科学の基礎	172
11 次世代育成支援プラン	次世代育成支援	1,203	27 地域貢献リーダー人材育成プラン	地域貢献リーダー人材	368
12 コミュニティ学習支援プラン※	地域生涯学習支援	319	28 日本文化を伝える国際ボランティア・ガイド(基礎力)養成プラン	日本文化を伝える国際ボランティア・ガイド(基礎力)養成~2020年ボランティア・ガイド~	41
13 異文化コミュニケーションプラン	異文化理解支援	1,061	29 学校地域連携コーディネータープラン	学校地域連携コーディネーター	23
14 アジア研究プラン※	アジア研究	455	30 データサイエンスプラン	データサイエンス	10
15 日本の文化・社会探求プラン	日本の文化と社会	585			
16 宇宙・地球科学プラン	宇宙・地球科学	668	合計		25,142

※がつくプランは、2019年3月31日をもって廃止したが、経過措置として2024年3月31日まで申請が可能である。

他機関への教育支援

単位互換の取り組み

本学は、全国の教育機関と積極的に単位互換協定を進めている。2018年度には、新たに4校の大学と単位互換協定を締結し、合計399校となった。

2018年度に締結した単位互換協定締結校

大学名	大学名
佛教大学通信教育課程	福岡女子大学
公立諏訪東京理科大学	文教大学

専修学校との連携協力

本学では、専修学校専門課程と連携協力を実施し、専修学校専門課程に在籍しながら学士(教養)の学位を取得できる制度を設けている。2018年度も新たに3校の専修学校と連携協力の覚書を締結し、合計で48校となった。

2018年度に締結した連携協力校(専修学校)

学校名	学校名
お茶の水はりきゅう専門学校	大阪医療技術学園専門学校
鹿児島医療福祉専門学校	

キャリアアップを支援する

資格取得

本学で修得した単位は、以下の資格取得等のために活用することができる。

- 看護師国家試験受験資格 ● 教員免許状の上位・他教科・隣接校種の免許状 ● 学校図書館司書教諭資格 ● 特別支援学校教諭二種免許状(知的障害者教育領域・肢体不自由者教育領域) ● 養護教諭免許状 ● 栄養教諭免許状 ● 学芸員資格 ● 社会教育主事任用資格 ● 社会福祉主事任用資格 ● 介護教員講習会の対応科目 ● 看護師の特定行為研修制度対応科目

博物館実習について、2012年度から岐阜女子大学、2016年度から東京情報大学(2018年度まで)、2017年度から四国大学、九州産業大学との連携による博物館実

習を開講した。これは各大学との連携協定で定める受講資格を満たした本学学生がそれぞれの大学で博物館実習を受講するものである。

また、2009年度からの教員免許更新講習制の実施に伴い、本学でも教員免許更新講習を実施している。本学の特性を活かし、テレビ・ラジオ及びインターネットを利用し、全国どこでも講習の受講が可能となっている。この講習は、毎年2回(夏期及び冬期)実施することとしており、2018年度の講習では、約20,300人の受講者が、延べ約91,600科目を受講した。

キャリアアップ支援認証制度

本学が関係団体と連携して開設する講座や、本学が開設する授業科目等により体系的に編成された講習を受講された方に対して、独自の認証状を発行する「キャリアアップ支援認証制度」を創設した。本制度は、様々なニーズに応える講座を柔軟な仕組みで提供するもの

であり、受講者は、本学学生であることを要しない。その第1号として、主に小学校教員を対象としたオンライン講座「プログラミング教育プラン」2講座を2019年度から開設することとした。

学生の研究成果の公開

本学(学部)では、学生が指導教員から直接、指導を受ける機会を提供するため、卒業研究を開設しており、毎年多くの学生が履修している。そこで2007年度から、卒業研究の履修を将来希望する学生への情報提供として、卒業研究のテーマ一覧と、研究成果である卒業研究報告書の公開を、キャンパスネットワークホームページで開始した。2018年度は、2017年度の「卒業研究報告書テーマ一覧」と「卒業研究報告書(全文)」30点をシステムWAKABAで公開した。

大学院については、修士論文を基にした学生論文集

「Open Forum(放送大学大学院教育研究成果報告)」を2005年3月から刊行している。在学生や今後の入学者への情報提供のほか、大学から社会に向けた情報発信、教員の自己点検・自己評価、修士課程の教育研究内容が具体的に見える資料として利用されることを目的としている。2019年3月刊行の第15号には2017年度修了生全322名の研究成果の中から、論文12点、研究ノート42点が掲載されている。



Open Forum 15号

より質の高い教育を目指して

じっくり3年かけて授業科目を作成

本学では毎年、何十もの放送授業を新たに開設している。一つの放送授業を開設したら、4年から6年程度で内容の見直しをするからである。閉講して別の放送授業を新設する場合もあれば、既存の内容に新しい情報を加えて改訂する場合もある。そのため、放送授業を担当する講師は、次はどのような内容にするか、どの講師と一緒に教材をつくるかを考えていかなければならない。

下の図のように、授業開始（開講）の3年ほど前から構想を練りはじめ、「このような科目をつくりたい」と大学側に提案する。科目開設が決定すると、「主任講師会議」を開いてスケジュールの確認、編集者等との顔合わせをする。

印刷教材は、授業番組の回数に合わせて15章で構成されており、担当する講師が分担して執筆する。主な内容や分担を決め、締切などのスケジュールを確認したら、原稿執筆に取りかかる。原稿の締切は、授業開始のおよそ1年前。

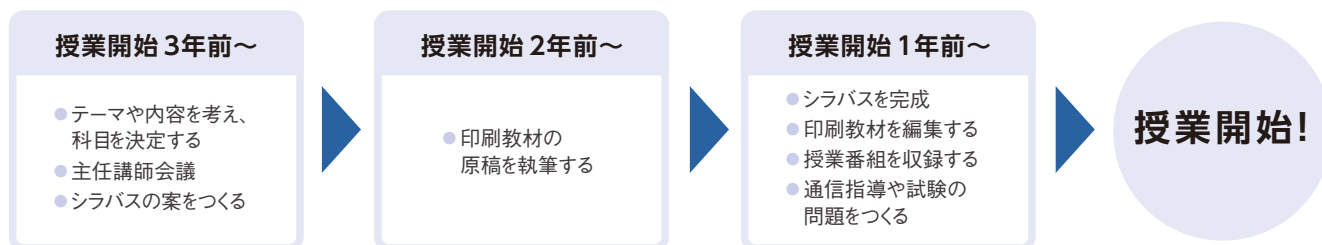


主任講師会議

開講の1年前から、授業番組づくりに入る。スタッフの多くは、教育番組等を制作してきたベテラン。プロデューサーやディレクターと打ち合わせをし、どのような番組構成にするかを決めていく。そして、必要な素材を集め、台本をもとにスタジオでの収録に臨む。

このように約3年間をかけ一つの授業科目は作成される。

授業科目づくりの主な流れ



FD(Faculty Development)の取り組み

FD(Faculty Development)の一環として、2019年2月20日(水)にFD委員会主催による講演会を開催した。

2018年度は、「問題作成システムの再構築」と題し、情報コースの浅井紀久夫教授から、新しい問題作成システムの概要と運用のイメージについての講演があった。また、「CBT(Computer Based Testing)の導入

への試み」と題し、情報コースの芝崎順司教授から、導入が進みつつあるCBTというものが実際どのようなものであるかを紹介し、導入のメリットと現時点での課題について講演があった。

2講演の終了後、参加者からの質疑応答があり、活発な議論が展開された。

ICTを活用した教育の支援

Web会議システムを利用した双方向の学生指導

本学の授業には放送授業、オンライン授業及び面接授業が存在するが、一方で、卒業研究や修士課程・博士後期課程での研究指導(論文執筆指導)も行われている。

本学学生は全国各地にいるため、遠隔の研究指導を受ける学生のために、Web会議システムを整備している。このサービスは、ASP(アプリケーション・サービス・プロバイダ)方式で(株)ブイキューブと契約をしている。これは、学内にテレビ会議システム用のサーバを保有・運営するのではなく、ウェブ会議用のサーバを利用する権利を契約によって取得する方式である。放送大学のように、利用が週末に集中する環境では、専門的な知識や保守を学内で行う必要がないASP方式のメリットが高い。

実際には、遠隔による研究指導やゼミを行うことが決まり次第、専任教員が実施日と時間を定めて利用申請を行う。その後、事業者のサーバを利用するために必要なURLと「ゼミID」が発行される。ゼミの参加者は

パソコンのウェブブラウザで指定されたURLを開いて「ゼミID」を入力すると、パソコン内蔵(あるいは外付)のビデオカメラとマイクロフォンからの映像と音声、Web会議システムの中に投影される。参加者のパソコンに専用のソフトウェアをインストールしなくても、気軽に参加できるというメリットがある。また、タブレットで使う場合には、このWeb会議システム専用のアプリがあり、パソコンよりも簡単な手順で利用可能となっている。



ウェブ会議サービスの画面

ソーシャル・ネットワーキング・サービスを利用した交流

放送授業での学習は、自宅や学習センターで、一人で学ぶことが多く、従来は、ともに学ぶ「学友」は、学習センターで出会うしかなかった。

だが、近年、インターネットの利用者が増大し、また、インターネットに接続して利用できる機器が、従来のパソコンのみならず、タブレットや、スマートフォンなどにも広がった。これらの機器は、簡単に取り扱うことができ、また、導入費用も下がっている。そのため、多くの人々が、インターネットを利用した交流によって、意見交換をしたり、精神的に癒されたりすることが可能になった。特に、ソーシャル・ネットワーキング・サービス(SNS)を利用した交流が増加しつつある。

本学は、無料オンライン講座を提供する「日本オープンオンライン教育推進協議会(JMOOC)」に入会している。そこで、授業映像を提供するために、世界最大のSNSとして知られるフェイスブックに「放送大学JMOOCページ」を設けている。

また、本学のコース・学習センターの一部が、ツイッター

やフェイスブックにページを開設し、情報公開を行っている。さらに、岡部前学長及び一部の教員がツイッターを利用して本学に興味を持つ一般の人や、在学生相互の交流に加わっている。



岡部前学長のツイッター

情報コース「映像コンテンツの制作技術(16)」のツイッター

放送大学における研究

特別研究と外部資金による研究

本学では、専任教員が数多くのテーマのもと積極的に研究を行い、その成果を世に送り出している。研究の支援・推進のために、特に本学の発展に寄与する教育・研究プロジェクトや学術上あるいは大学運営に貢献する研究に対して特別研究費の制度を設け、プロジェクト支援として、また、教員個人の研究助成として資金面

での支援をしている。さらに、放送大学教育振興会等他機関からの助成基金も積極的に得て研究を進めている。2018年度に特別研究として、また、放送大学教育振興会・日本学術振興会等の助成で実施した研究テーマは以下の通りである。

2018年度学長裁量経費(研究助成)決定者一覧

所属	職名	氏名	研究課題名
心理と教育	准教授	高橋 秀明	情報生態学の構築：人間のプロセス制御行動を事例に
情報	教授	中谷 多哉子	定性的な要求変更予測に関するシナリオ生成手法の開発
情報	教授	山田 恒夫	北米高等教育機関におけるパーソナルデータの取扱いに関する調査
情報	准教授	鈴木 一史	深層学習による高精細3次元CG画像の質感情報解析
情報	准教授	辻 靖彦	交差遅延モデルを用いた小規模大学のICT活用による教育効果を増大する要因の特定
自然と環境	教授	石崎 克也	複素離散関数方程式の有理型関数解の研究

放送大学教育振興会助成による研究：多様なメディアの研究開発、教材及びシステム等の研究開発

所属	職名	氏名	研究課題名
生活と福祉	教授	井出 訓	タブレット端末とYoutubeを活用した簡易的授業補完映像副教材の作成とその効果測定
心理と教育	准教授	高橋 秀明	遠隔「研究(指導)」実践過程の記述：放送大学大学院「研究指導」科目を対象に
人間と文化	教授	稲村 哲也	博物館活用による遠隔教育の教材および教育システムの開発
人間と文化	准教授	大橋 理枝	放送大学のオンライン科目で音声添削を行うためのシステム改修
社会と産業	教授	児玉 晴男	Webキャストコンテンツのマルチデバイスアプリ開発に関する研究
情報	教授	芝崎 順司	学生の映像視聴反応を利用した双方向型遠隔学習支援モバイルシステムの開発と運用
情報	教授	仁科 エミ	パソコンでの学習に適合した放送教材の音質とその改善の研究
情報	教授	廣瀬 洋子	音声認識システムを活用したメディア教材の字幕化及び多言語化の研究
情報	教授	山田 恒夫	デジタルバッジを利用した生涯学習ポートフォリオの研究
情報	准教授	葉田 善章	システム履歴に基づく教材改善要因の検討に関する研究

放送大学教育振興会助成による研究：教材の海外への普及・協力事業、国際交流の促進事業

所属	職名	氏名	研究課題名
社会と産業	教授	河合 明宣	ブータン王立大学との国際交流協定に基づくオンライン科目共同制作を通じた放送大学教材のブータンへの普及・協力事業

放送大学教育振興会助成による研究：機関特別推進研究等に係る助成

所属	職名	氏名	研究課題名
	副学長	岡田 光正	放送大学学生の学習環境改善に関する研究及び効果的な学生増加方策の検証について

日本学術振興会の科学研究費助成事業による研究(氏名は代表者)

所 属	職 名	氏 名	研究種目	研究課題名
自然と環境	教授	谷口 義明	基盤A	スーパーウインドによる銀河と銀河間物質の共進化
生活と福祉	教授	山内 豊明	基盤B	看護臨床アセスメントモデルの構築ならびに実践能力育成に向けた学際的実証研究
心理と教育	教授	岩崎 久美子	基盤B	教育格差是正のための社会的セーフティネットシステム形成に関する総合的研究
	教授	小川 正人	基盤B	近年の教育行政関係法制の改正と地方教育行政の変化に関する調査研究
	教授	森 津太子	基盤B	ナッジとしての"見つめる目"効果:仮想および実空間における社会実験
社会と産業	教授	河合 明宣	基盤B	インド経済圏内の食品流通システムの展開方向と日本農産物の輸出可能性の究明
	教授	柳原 正治	基盤B	外交官、国際法学者、そして裁判官としての安達峰一郎に関する総合的研究
情報	教授	加藤 浩	基盤B	学習者の表出動作から心的状態を推定し集計・フィードバックするシステムの開発
	教授	近藤 智嗣	基盤B	コンピュータビジョンと行動分析による複合現実感展示システムのインテリジェント化
	教授	中川 一史	基盤B	国語科「読むこと」領域の学習者用デジタル教科書を活用した学習指導モデルの開発
自然と環境	教授	岸根 順一郎	基盤B	キラル物質における対称性の破れと電磁応答
愛知SC	特任教授	氏家 達夫	基盤B	胎児期に原発事故を経験した福島の子どもの小学校への適応についての発達の研究
			基盤B	チェルノブイリ事故後30年から福島の子どもの心理社会的問題を考える
生活と福祉	客員教授	内堀 基光	基盤B	「老いの文化」の形成と機能に関する比較に基づく人類学的研究
	客員教授	宮本 みち子	基盤B	若者期の生活保障の構築に向けた国際比較研究—社会的に排除される若者層を中心に—
	教授	下夷 美幸	基盤C	離婚紛争における当事者支援の実証的研究
心理と教育	准教授	川原 靖弘	基盤C	脳機能解析手法による騒音評価指標の構築
	教授	苑 復傑	基盤C	経済転換期における中国高等教育政策の背景と浸透過程
	教授	進藤 聡彦	基盤C	知識の構造化を促す教授戦略と教材開発に関する教育心理学研究
	教授	田中 統治	基盤C	高等学校の「学びの基礎診断」によるカリキュラム・マネジメントの特徴と課題
	准教授	小林 真理子	基盤C	がん患者の子どもと家族への支援リソースの開発に関する研究
人間と文化	教授	滝浦 真人	基盤C	近現代日本語におけるポライトネス意識の通時変化の研究:敬語と授受表現をめぐって
	准教授	大橋 理枝	基盤C	分野横断的な科学リテラシーの創造とそれに向けたプラットフォーム構築に関する研究
情報	教授	青木 久美子	基盤C	コンピテンシーに基づく教育(CBE)の実施に関する調査研究
	教授	大西 仁	基盤C	聴覚機構に基づく感覚的協和間モデル
	教授	伏見 清香	基盤C	被災館と海外の館を繋ぐ携帯情報端末を使用した参加型成長連携ミュージアムの支援
	准教授	浅井 紀久夫	基盤C	技能伝承のための分散協調訓練での深層学習による触力感覚再現の高度化
自然と環境	教授	加藤 和弘	基盤C	都市の大規模樹林地は核となる生息場所となり得るのか
	教授	二河 成男	基盤C	昆虫ゲノムから探る遺伝子水平転移により獲得した遺伝情報の機能と特徴
	教授	安池 智一	基盤C	ホットキャリア生成機構の理解に基づくプラズモンケミストリーの深化
東京多摩SC	特任教授	坂内 徳明	基盤C	近代ロシア文学現出の舞台—ロシア文学史における貴族屋敷(ウサーチバ)の意義
三重SC	特任教授	清水 真	基盤C	共役イミンへの多段階反応を基軸とする新規合成反応の開発
京都SC	特任教授	杉島 敬志	基盤C	オーストロネシア諸族における在来政体の比較研究—東南アジア島嶼部を中心に—
	客員教授	内堀 基光	基盤C	サラワク・イバン社会における居住空間の現代的再編成に見る社会的強靱性
生活と福祉	教授	山内 豊明	挑戦的萌芽研究	聴診運用能力向上のための自己改善増殖型クラウド環境システムの開発実証研究
情報	教授	辰己 丈夫	挑戦的萌芽研究	情報倫理・情報セキュリティと自閉症スペクトラムとの関連分析
人間と文化	特任教授	稲村 哲也	挑戦的研究(萌芽)	山岳高所・遊牧地域における遠隔教育の可能性
情報	教授	加藤 浩	挑戦的研究(萌芽)	主体的問題解決能力育成のための漸進的目標形成モデルを用いた学習支援システムの構築
	教授	仁科 エミ	挑戦的研究(萌芽)	基幹脳を活性化する超高周波の受容部位の探求
社会と産業	准教授	白鳥 潤一郎	若手B	冷戦期におけるエネルギー資源ガバナンスの国際的展開と日本外交
	特別研究員	小栗 寛史	特別研究員奨励費	慣習国際法論の変容—ヨーロッパ国際法の普遍化の帰結として
	特別研究員	金 広殖	特別研究員奨励費	近代日本における日韓比較民話説話研究の形成過程に関する実証的研究

その他外部資金助成による研究

所 属	職 名	氏 名	助成元	資金名・事業名等	研究課題名
自然と環境	教授	岸根 順一郎	日本学術振興会	二国間交流事業	カイラル螺旋磁性体の構造とスピンドYNAMICS
生活と福祉	教授	戸ヶ里 泰典	公益財団法人 北野生涯教育振興会	生涯教育研究助成金	市民のためのストレス対処力・健康リテラシーの向上教育プログラムの構築に関する調査研究～社会的・文化的要因に着目して
人間と文化	教授	稲村 哲也	公益財団法人 北野生涯教育振興会	生涯教育研究助成金	博物館と連携した遠隔教育による新たな生涯学習システム
生活と福祉	教授	田城 孝雄	公益財団法人 在宅医療助成勇美記念財団	自主事業	放送大学学習センター公開講座 地域貢献・市民啓発事業
社会と産業	教授	児玉 晴男	公益財団法人 放送文化基金	放送文化基金助成 (人文社会・文化)	放送のインターネット同時配信における法的課題に関する研究

放送大学研究年報

『放送大学研究年報』は本学の専任教員が日頃の研究成果を発表する場である。2018年度版を2019年3月に発行した。

2018年度放送大学研究年報(第36号)著者及び論題一覧

著者	論題
田城孝雄、渡邊清高	オンライン講座「がんを知る」の効果
山田知子	『東京府慈善協会』救済委員の「細民標準」への貢献 -『東京府慈善協会会報』を手がかりに-
佐藤仁美	Guatemalaにおけるマヤ先住民の空間表現へのアプローチ～Ixil地方を中心に～
向田久美子	子ども向け食品に見る広告メッセージ-お菓子のパッケージの内容分析-
河合明宣、吉田瑞樹、 川島英昭	放送大学の地域貢献機能 -学習センター・サークルのネットワーク分析を手がかりに-
原田順子	わが国における1990年代の賃金制度改革と遅いキャリア形成
稲村哲也	「私たちはどこからきたのか、私たちは何者か」 -多文化共生のための人類学的視点:マドログソ連邦大学との遠隔教育協働研究から-
石井祥子、奈良由美子、 稲村哲也、高橋 博文、 スヘー・バートルガ、鈴木康弘	モンゴル西部の地方都市と遊牧社会における暮らしと 自然災害-ホブド県における現地調査報告
大橋理枝	小学校・中学校の国語科指導要領にみる学びの型: 平成20年版と平成29年版の項目対応を踏まえて
山岡泰幸、青木久美子、 高橋秀明、清水 仁	放送大学オンライン授業科目における未修了の原因および 修了者の不満要因の定量的および定性的研究
芝崎順司、辻靖彦	放送大学におけるリメディアル教育の在り方の検討
辻靖彦、芝崎順司	放送大学におけるリメディアル教育に関する実態調査と学習コミュニティ構築への展望
広瀬洋子	放送大学における学習環境のアクセシビリティ: 聴覚障害者のための音声認識技術を活用した講義の字幕化
佐藤和夫	子どもの本を集めた人～戦前期ドイツの四人のコレクターについて～
坂内徳明	生涯、在野にて-ロシアの巨人アンドレイ・ボロフのこと
西嶋美智子	第二次世界大戦参戦前のアメリカの連合国援助とその国際法上の正当化根拠
島内裕子	一葉日記における和歌と散文



放送大学研究年報 第36号

研究成果の発表・普及【書籍】

本学の専任教員・学習センター所長は、研究の成果を発表し共有・普及するために、印刷教材以外にも、多数の書籍を編集・執筆している。また辞書・辞典の編纂も行っている。これらの書籍は市販されていて購入することが可能である。また、本学や公共の図書館などに所蔵

されているので、閲覧可能である。放送授業や印刷教材の内容とは異なり、より専門的かつ先進的な内容を含んでおり、各教員が日々取り組んでいる研究テーマや研究活動・成果に深く触れる絶好の機会となるので積極的に手にとってみてほしい。

所属・氏名	書籍名・辞典名	出版社
生活と福祉	関根 紀子 平成29年度 体力・運動能力調査報告書(内藤久士、鈴木宏哉、関根紀子他)	スポーツ庁
	山内 豊明 呼吸音聴診ガイドブック 看護必要度	医学書院 2018年4月 日本看護協会出版会 2018年5月
心理と教育	岩崎久美子 岩崎久美子編著「社会的セーフティネットの構築:アメリカ・フランス・イギリス・日本」	一般財団法人日本青年館 「社会教育」編集部 2019年2月
	小川 正人 解説 教育六法2019年度版 教育政策の構造転換	編修 三省堂 2019年2月 全1212頁 日本教育経営学会「現代教育改革と教育経営」 講座・現代の教育経営第1巻 2018年6月 学文社、14頁～23頁
社会と産業	白鳥潤一郎 日本外交の論点(第23章「資源小国」に求められるエネルギー資源外交 [244-253頁]を担当)	法律文化社 2018年4月
	松原隆一郎 頼介伝	苦楽堂 2018年7月
	柳原 正治 "Treaty of Portsmouth (1905)", "Treaty of Shimonoseki (1895)", G. Martel (ed.), The Encyclopedia of Diplomacy	West Sussex: Wiley-Blackwell, 2018, Vol. IV, pp.1843-1847, 1862-1865

所属・氏名	書籍名・辞典名	出版社
人間と文化	稲村 哲也 山本紀夫(編)『熱帯高地の世界―「高地文明」の発見に向けて』221-258頁、 「アンデスとヒマラヤ・チベットの牧畜―『移動』と『資源化』に着目して」 展示学事典編集委員会(編)『展示学事典』、「政治・権力と展示」	ナカニシヤ出版
	近藤 成一 『朝河貫一と人文学の形成』海老澤表・甚野尚志と共編	丸善出版 吉川弘文館 2019年3月10日発行
	島内 裕子 島内裕子、『樋口一葉』 島内裕子、(文庫解説)『日本人の死生観』(立川昭二著)	笠間書院(コレクション日本歌人選)、2019年3月 ちくま学芸文庫、2018年9月
情報	広瀬 洋子 竹田一則編著『よくわかる! 大学における障害学生支援』pp. 237-242、 「通信制の高等教育における障害学生への支援―ICT活用の視点から」	ジアース教育新社
障がいに関する学生支援相談室	角田 哲哉 病気の子どもたちの世界	創元社 2018年6月刊
宮城学習センター	大淵 憲一 大淵憲一(訳)『犯罪の一般理論:低自己統制シンドローム』	丸善出版、2018年9月30日刊(原著Gottfredson, M. R. & Hirschi, T. 『A general theory of crime』 Stanford, CA: Stanford University Press, 2000)
	大淵憲一(編)『ここを科学する:心理学と統計学のコラボレーション』	共立出版、2019年3月15日刊
福島学習センター	千葉 悦子 「原発事故が問いかけのいのち・食・安全・次世代につなぐ課題」(19~22pp)、 「食・いのち・暮らしを守る農家女性の協同活動」(43~58pp)、 佐藤一子・千葉悦子・宮城道子編著『〈食といのち〉をひらく女性たち』	農文協、2018年4月
	千葉 悦子 「農業を基盤とする零細家族経営機業―農村と女性労働」(209~242pp) 木本喜美子編著『家族・地域のなかの女性と労働 共稼ぎ労働文化のもとで』	明石書店、2018年9月
	千葉 悦子 『女性白書』(108-112pp)『社会教育』	ほるぷ出版、2018年8月
東京足立学習センター	柴 真理子 臨床舞踊学への誘い〜身体表現の力〜 編著(共著)	ミネルヴァ書房 2018.5.

研究成果の発表・普及【論文】

大学教員の教育の原動力になるものは専門の研究である。ここから湧き出る問題を追い求める力が、忍耐力を高め、新たな発見を生み出す。本学の専任教員・学習センター所長は、各分野・領域における専門家である。研究論文は審査を受け学術雑誌から世に放たれる。2018年度に発表された、学術論文を紹介する。

所属・氏名	論文名	発表媒体等
生活と福祉	関根 紀子 Exercise Training Prevents Doxorubicin-induced Mitochondrial Dysfunction of the Liver. Hinkley JM, Morton AB, Ichinoseki-Sekine N, Huertas AM, Smuder AJ.	Med Sci Sports Exerc. 2019 Jan 8. doi: 10.1249/MSS.0000000000001887. [Epub ahead of print]
	関根 紀子 Increased SOD2 in the diaphragm contributes to exercise-induced protection against ventilator-induced diaphragm dysfunction. Morton AB, Smuder AJ, Wiggs MP, Hall SE, Ahn B, Hinkley JM, Ichinoseki-Sekine N, Huertas AM, Ozdemir M, Yoshihara T, Wawrzyniak NR, Powers SK.	Redox Biol. 2019 Jan;20:402-413. doi: 10.1016/j.redox.2018.10.005. Epub 2018 Oct 21.
	関根 紀子 Body temperature elevation during exercise is essential for activating the Akt signaling pathway in the skeletal muscle of type 2 diabetic rats. Tsuzuki T, Yoshihara T, Ichinoseki-Sekine N, Kakigi R, Takamine Y, Kobayashi H, Naito H.	PLoS One. 2018 Oct 10;13(10):e0205456. doi: 10.1371/journal.pone.0205456. eCollection 2018.
生活と福祉	山内 豊明 Effect of a physical assessment educational program on clinical practice, Mitoma R, Yamauchi T	Journal of Nursing Education and Practice 8(8) 96-104, 2018
	山内 豊明 Effectiveness of a learning support program for respiratory physical assessment: A quasi-experimental study, Mitoma R, Yamauchi T	PLoS ONE 13(9): e0202998. https://doi.org/10.1371/journal.pone.0202998, September 12, 2018
生活と福祉	吉村 悦郎 Decreased aluminium tolerance in the growth of Saccharomyces cerevisiae with SS02 gene disruption, Toshiyoshi Yamamoto, Daiki Yamamoto, Keiji Rokugawa, Ko Yoshimura, Yuki Imura, Etsuro Yoshimura, Michio Suzuki	Biomaterials, 31, 203-215(2018)
	吉村 悦郎 Structural and functional analyses of calcium ion response factors in the mantle of Pinctada fucata, Akihiro Matsuura, Ko Yoshimura, Hiroyuki Kintsu, Takashi Atsumi, Yasushi Tsuchihashi, Takeshi Takeuchi, Noriyuki Satoh, Lumi Negishi, Shohei Sakuda, Tomiko Asakura, Yuki Imura, Etsuro Yoshimura, Michio Suzuki	Journal of Structural Biology 2018 Nov;204(2):240-249.
心理と教育	小川 正人 「県費負担教職員制度運用の多様性に関する調査研究『平成の大合併』以降の教員人事を中心に」(共著:小川正人、川上泰彦、本多正人、植竹丘、櫻井直輝)	国立教育政策研究所・共同研究プロジェクト「地方教育行政の多様性・専門性に関する研究」分冊、全105頁 2019年3月
	進藤 聡彦 ルールと事例の論理構造理解がルール適用に及ぼす影響(共著)	教授学習心理学研究14, 1-10.
社会と産業	児玉 晴男 児玉晴男、研究開発におけるデュアルコースと知財管理	パテント、Vol.71、No.7、pp.133-139、2018年6月10日
	児玉 晴男 児玉晴男、オープンサイエンスとオープンイノベーションの法的な課題とその対応	企業法研究、Vol.7、No.2、pp.81-102、2019年3月31日
人間と文化	河原 温 新刊紹介「A. Brown & J. Dumolyn, (eds.) Medieval Urban Culture, Brepols, 2017」	『西洋中世研究』No.10, 2018, 228頁
情報	中谷 多哉子 廣瀬 司、中谷 多哉子:情報セキュリティ教育ゲームの学習効果の検証	信学技報 IEICE-118(463) 69-73 2019年3月
	中谷 多哉子 小川 一彦、中谷 多哉子:Predicting Fault Proneness of Programs with CNN	Proc. of the 11th International Conference on Agents and Artificial Intelligence 321-328 2019年2月
	中谷 多哉子 岡本 克也、中谷 多哉子:会議での意見収集を補完するMinute Paper ~その事例報告と考察201903~	信学技報 IEICE-118(463) 81-86 2019年2月
	中谷 多哉子 中谷 多哉子、後藤 秀雄、中村 太一、紫合 治: A method to generate traverse paths for eliciting missing requirements	Proceedings of the Australasian Computer Science Week Multiconference (ACSW2019) 54:1-54:10 2019年1月
	中谷 多哉子 阿部 敬一郎、中谷 多哉子:The Role of a Mediator of Internet-Based Projects	Proceedings of the 12th International Conference on Project Management (ProMac2018) 979-986 2018年11月

所属・氏名	論文名	発表媒体等	
情報	中谷 多哉子	岡本 克也、中谷 多哉子:会議の意見を受け止める	ソフトウェア品質シンポジウム2018 2018年9月
		中谷 多哉子、後藤 秀雄、紫合 治、中村 太一: Generating Scenarios with Access Permission from a Conceptual Model	Smart Innovation, Systems and Technologies 108 127-136 2018年8月
		阿部 敬一郎、中谷 多哉子: Moral Education for Adults for Information Ethics to Effect the Unknown Problem	Smart Innovation, Systems and Technologies 108 43-52 2018年8月
		高瀬 一郎、中谷 多哉子:機械学習を 利用したBLE (Bluetooth Low Energy)の距離計測	情報処理学会研究報告ソフトウェア工学 2018-SE-199(23) 1-5 2018年7月
		岡本 克也、中谷 多哉子: 会議の生産性向上のためのMinute Paper の提案	情報処理学会研究報告ソフトウェア工学 2018-SE-199(22) 1-6 2018年7月
自然と環境	石崎 克也	Lin, W. and K. Ishizaki, A "3IM+1CM" result for periodic meromorphic functions	J. Math. Anal. Appl., 466 (2018), 726-732.
		Heittokangas, J., K. Ishizaki, K. Tohge and Z.-T. Wen, Zero distribution and division results for exponential polynomials	Israel Jour. Math. 227 (2018), 397-421.
		Ishizaki, K. and R. Korhonen : Meromorphic solutions of algebraic difference equations	Constr. Approx., 48(3) (2018), 371-384.
	橋本 健朗	Toshihiko Shimizu, Kenro Hashimoto, Masahiko Hada, Mitsuhiro Miyazaki and Masaaki Fujii, A theoretical study on the size-dependence of ground-state proton transfer in phenol-ammonia clusters	Phys. Chem. Chem. Phys., 20, 3265-3276(2018)
		Mengrui Yang, Kenro Hashimoto, Tatsuya Fujino, Silver nanoparticles loaded on ammonium exchanged zeolite as matrix for MALDI-TOF-MS analysis of short-chain n-alkanes	Chem. Phys. Lett.706, 525-532(2018)
	安池 智一	Megumi Sakurai, Mengrui Yang, Jiawei Xu, Mai Thanh Nguyen, Tetsu Yonezawa, Kenro Hashimoto, Tatsuya Fujino, Copper ion production using zeolite and application to MALDI MS of small molecules	Int. J. Mass Spectrom., 434 (2018) 179-184
		Pendular alignment and strong chemical binding are induced in helium dimer molecules by intense laser fields, Q. Wei, S. Kais, T. Yasuike, and D. Herschbach	Proceedings of the National Academy of Sciences 115, E9058 (2018).
		Dynamics of electrons in plasmonic excitation of ring-shaped Na clusters, K. Someda and T. Yasuike	Physical Review A 98, 053436 (2018).
		Structures of Rhodium Oxide Cluster Cations Rh70m+ (m = 4-7, 12, 14) Revealed by Infrared Multiple Photon Dissociation Spectroscopy, F. Mafune, K. Koyama, T. Nagata, S. Kudoh, T. Yasuike, K. Miyajima, D. M. M. Huitema, V. Chernyy, J. M. Bakker	Journal of Physical Chemistry C 123, 5964 (2019).
		中村 悦郎、高橋 毅、景山 陽一、石井 雅樹、西田 眞: 「順伝播型ニューラルネットワークを用いた口唇形状自動抽出法」	電気学会論文誌C, Vol.138, No.12, pp. 1604-1612, (Dec. 2018)
秋田 学習センター	西田 眞	M. Suzuki, Y. Kageyama, C. Ishizawa, M. Nishida, K. Sato, M. Kaneko and T. Nagaki : Generating Learning Data for Hierarchical Vegetation Classification Methods Using Support Vector Machine	International Journal of the Society of Materials Engineering for Resources, Vol.23, No.2, pp.215-219, (Sep. 2018)
		H. Zhang, T. Takahashi, Y. Kageyama and M. Nishida : Emotion Discrimination of Amusement by Focusing on Three-Dimensional Data of Body Movements	International Journal of the Society of Materials Engineering for Resources, Vol.23, No.2, pp.189-194, (Sep. 2018)
		S. Kitano, C. Ishizawa, Y. Kageyama and M. Nishida : Reduction Condition of Flicker during Switching of Two-colors for Protection of Image Displayed on a Liquid Crystal Display	International Journal of the Society of Materials Engineering for Resources, Vol.23, No.2, pp.184-188, (Sep. 2018)
		S. Sato, Y. Kageyama, C. Ishizawa and M. Nishida : Person Region Extraction and Background Replacement in Images for Privacy Protection	International Journal of the Society of Materials Engineering for Resources, Vol.23, No.2, pp.162-166, (Sep. 2018)
		S. Sato, H. Yokoyama, Y. Kageyama, C. Ishizawa, M. Nishida and K. Konishi : Development of a 3D Hair Simulator to Support a Hairdresser's Haircut	International Journal of the Society of Materials Engineering for Resources, Vol.23, No.2, pp.137-141, (Sep. 2018)
		T. Takahashi, Y. Kageyama, M. Ishii and M. Nishida : Facial Expressions Due to Positive Feelings Observed Using Visible Spectrum and Near Infrared Images	ICIC-ELB (ICIC Express Letters, Part B: Applications; An International Journal of Research and Surveys), Vol.9, No.9, pp.879-886, (Sep. 2018)
		Y. Kageyama, H. Ishikawa, C. Ishizawa, T. Takahashi, M. Nishida, H. Shinden, T. Takisawa, T. Koyama and M. Kobushi : Method to Estimate Colors of Amber Debris	IEEJ Transactions on Electrical and Electronic Engineering, Vol.13, No.8, pp.1212-1213, (July 2018)
		C. Ishizawa, S. Kitano, Y. Kageyama and M. Nishida : Speed and Brightness Verification while Switching Two-Brightness without Flicker on a Liquid Crystal Display	IIEEJ Transactions on Image Electronics and Visual Computing, Vol.6, No.1, pp.39-46, (June 2018)
		Y. Gaman, M. Ishii, Y. Kageyama, T. Takahashi and M. Nishida : Adaptive Learning Function for Unlearned Facial Expression Patterns Using Fuzzy-ART	Journal of Japan Society for Fuzzy Theory and Intelligent Informatics, Vol.30, No.3, pp.565-570, (June 2018)
		三重 学習センター	清水 真
Synthesis of α -Carbolines Using Palladium-Catalyzed Intramolecular Amination of 3-(2-Chlorophenyl)-2-Aminopyridines, Iwao Hachiya, Satoshi Shimada, Makoto Fukutomi, Ryoya Miura, and Makoto Shimizu	Chemistry Select, 4, 469 -472 (2019). DOI: 10.1002/slct.201803948.		
Efficient One-pot Syntheses of 3-Amino-2-pyrones and 3-Amino-5,6-dihydro-2-pyridones from β , γ -Alkenyl α -Iminoesters: Application to the Synthesis of Tricyclic Pyranoindole, Kenta Nakahama, Misato Suzuki, Mami Ozako, Isao Mizota, and Makoto Shimizu	Asian J. Org. Chem, 7, (5), 910-913 (2018). DOI: 10.1002/ajoc.201800186.		
Umpolung Reaction of α -Imino Thioesters and the Subsequent C-C Bond Formation with the Unexpected Alkylthio Rearrangement, Isao Mizota, Chihiro Ueda, Yun Tesong, Yusuke Tsujimoto, and Makoto Shimizu	Org. Lett., 20, (8), 2291-2296 (2018) DOI: 10.1021/acs.orglett.8b00639.		
広島 学習センター	山田 隆	Yoshikawa, G., Askora, A., Blanc-Mathieu, B., Kawasaki, T., Li, Y., Nakano, M., Ogata, H., and Yamada, T.: Xanthomonas citri jumbo phage XacN1 exhibits a wide host range and high complement of tRNA genes.	Scientific Reports (2018) 8:4486
		Rakkhumkaew, N., Kawasaki, T., Fujie, M, and Yamada, T.: Chitin synthesis by Chlorella cells infected by chloroviruses: Enhancement by adopting a slow-growing virus and treatment with aphidicolin.	J. Biosci. Bioeng. (2018) 125: 311-315
		Saad, A., Askora, A., Kawasaki, T., Fujie, M., and Yamada, T.: Full genome sequence of a polyvalent bacteriophage infecting strains of Shigella, Salmonella, and Escherichia.	Arch. Virol. (2018) 163: 3207-3210
		Bhunchoth, A., Phironrit, N., Leksomboon, C., Kawasaki, T., Yamada, T., Chachavankanpanich, O.: Isolation and characterization of bacteriophages that infect Ralstonia solanacearum in Thailand.	Acta Horticulturae (2018) 1207: 155-162.
		Saad, A., Soliman, A., Kawasaki, T., Fujie, M., Nariya, H., Shimamoto, T., and Yamada, T.: Systemic method to isolate large bacteriophages for use in biocontrol of a wide-range of pathogenic bacteria.	J. Biosci. Bioeng. (2019) 127: 73-78

国際交流の取り組み

2018年度は、昨年につき、本学が加盟する国際会議での発表や海外の協力交流協定締結大学への調査訪問等により連携強化を図った。また、海外の遠隔教育機関より講演者を招へいしての国際シンポジウムの開催や、海外からの来訪を多数受け入れるなど、積極的な国際交流に取り組んだ一年となった。

2018年度放送大学国際シンポジウムの開催

2018年9月8日、本学東京文京学習センターにて、海外より専門家2名を講師として招き、「データ科学が拓く放送大学の新時代 ～データを教育・研究・経営に活用する」をテーマとした国際シンポジウムを開催し、約80名の在学学生、一般市民、卒業生などが参加した。

第一部では、南オーストラリア大学教授Abelardo Pardo氏より、「デジタル教育においてデータから具体的な行動を起こす」と題した講演が行われ、第二部では、香港公開大学教授Li Kam Cheong氏より、「教育イノベーション：混乱、機会そして挑戦」と題した講演が行われた。第三部では、本学の岩永雅也副学長がモデレーターとなり、講演者2名とのディスカッションを行い、両講演者の経験に基づいた様々な意見を聞くことが出来た。

また、6月19日には大分市内にて「マチュピチュの出会いとアンデス文明」の講演会及び演奏会が行われた。翌日には宇佐市に場所を移し、同様の講演会が開催され盛況を博した。



講演者の2人と共に

第32回AAOU2018年次大会への参加

2018年10月24日～26日、ハノイ市Melia Hanoiホテルにてハノイ公開大学主催によりアジア公開大学連合(AAOU=The Asian Association of Open Universities)第32回年次大会が開催され、アジア諸国を中心に約250名の参加があった。本学からは、AAOU理事を務める來生学長のほか、計6名が参加した。

大会のテーマ“Open Education in Human Resource Development in ASIA's Period of Integration”(アジア統合期における公開教育による人材育成)のもと、三輪教授は“Expanding the Market to Include Recurrent Education: The Case of a Data Science Lecture Series”の題目で、放送大学のリカレント教育への取り組みを、山田恒夫教授は“Learning Analytics: Technical and Operational Requirements for the Implementation”の題目で放送大学における学習解析(LA)の取り組みについて語った。辻准教授は“A Survey on University

Students' Learning from Each Other at All Study Centers Nationwide at the Open University of Japan”の題目で学生同士の学び合いの取り組みについて、神総務課課長補佐は“Qualification Acquisition in OUJ: Being in Line with National Politics”の題目で、日本における資格更新や取得に関する本学の取り組みについて発表した。



本学からの参加メンバー

ICDE会議への参加

国際遠隔教育会議(ICDE=International Council for Open and Distance Education)のオープン・エデュケーション・リーダーシップ・サミットが、2018年12月3日～4日、フランス・パリにて開催され、本学から岩永副学長と岩崎教授が参加した。「協働を通じた成果の確立」のテーマのもと、オープン・エデュケーション推進に関わる多様な機関等から約200名(55か国)が参加した。公開討論では、オープン・エデュケーションに焦点をあて、情報共有や今後の方向性について活発な議論が交わされた。また、2019年2月11日～13日には、ICDEリレハンメル生

涯学習サミットがICDEとインランドノルウェー応用科学大学の共催によりノルウェー・リレハンメルにおいて開催され、40か国(本学の教職員3名を含む約400名)からの参加があった。サミットでは、世界の生涯学習のトレンド、需要と供給、教育者と学習者という3つのレベルに焦点をあてた内容を軸に、幅広いサブテーマにおいて分科会が展開された。隈部教授は「放送大学における効果的な数学教育」、岩崎教授は「日本におけるリカレント教育の再興」、神総務課課長補佐は「人生100年時代に向けた放送大学のリカレント教育」の題目で発表を行った。

第8回日中韓セミナー参加報告

2018年9月19日～21日、中国の国家開放大学(OUC)の主催により、第8回日中韓セミナーが開催された。本セミナーは本学と国際交流協定を締結しているOUCおよび韓国放送通信大学校(KNOU)の3国間で2009年から持ち回りで開催されている。

セミナーは“Online Teaching Development and Open University Innovation”(オンライン教育開発と公開大学の革新)をメインテーマとし、計6名の講演者による発表があった。

セッション1では、滝浦真人教授が「通信制大学における実体的なライティング教育の可能性」で、学生が自ら考えながら客観的な文章作成能力を学ぶ取り組みについて語り、セッション2では、加藤和弘教授が「生態学のオンライン授業におけるシミュレーションプログラムの役割」で、遠隔では難しかった生態学のフィールド調査法の教育を、シミュレーションプログラムを用いながら教授する試みについて発表し、活発な質疑応答がなされた。

スコータイ・タマティラート公開大学への調査訪問

2018年10月29日～31日、本学と協力交流協定を締結しているタイ・スコータイ・タマティラート公開大学(STOU)を三輪教授、辻准教授、神総務課課長補佐が訪問し現状調査を行った。

訪問初日には、ノンタブリ県にあるSTOU本部で温かい歓迎を受けた後、人的資源管理や番組制作、研究開発等について各担当者から説明を受け、活発な意見交換が行われた。2日目にはナコーン・ナヨーク県にある地域遠隔教育センターを視察訪問し、学生クラブ活動やセン

ターの課題等について情報収集した。

最終日には本部で、一般市民向けの生涯学習、印刷教材の製作プロセス、学生サポートや障がい学生への支援等についての説明を受けた後、Prasart Suebka学長代理を表敬訪問し、両学の友好関係について意見交換した。また、本学の現状について発表する場が設けられ、STOU理事長等が出席する中、両学について様々な意見交換が行われた。調査の詳細な内容は報告書にまとめられ、本学の研究及び運営等に役立てられる。

海外からの来訪

2018年度は、下記のとおり外国からの訪問者が遠隔教育に関する情報交換等のために本学を訪れた。

月日	来訪者	国/地域	月日	来訪者	国/地域
4月6日	マトグロソ連邦大学(7名)	ブラジル	10月29日	上海開放大学(8名)	中国
6月22日	韓国放送通信大学校(19名)	韓国	2月25～26日	アサバスカ大学(1名)	カナダ
9月7～8日	南オーストラリア大学(1名)	オーストラリア	3月15日	スコータイ・タマティラート公開大学(22名)	タイ
9月7～8日	香港公開大学(1名)	中国	3月27～28日	ブータン王立大学(2名)	ブータン

社会への貢献

本学は「開かれた大学」として、建学以来、熱心に社会貢献に取り組んできた。多岐にわたる社会貢献活動を行っているが、ここではその中から、本学の教員が行った活動の一部を紹介する。

日本学術会議

日本学術会議は、科学が文化国家の基礎であるという確信の下、行政、産業及び国民生活に科学を反映、浸透させることを目的として、昭和24年(1949年)1月、内閣総理大臣の所轄の下、政府から独立して職務を行う「特別の機関」として設立された。職務は、以下の2つである。

- 科学に関する重要事項を審議し、その実現を図ること。
- 科学に関する研究の連絡を図り、その能率を向上させること。

日本学術会議は、我が国の人文・社会科学、生命科学、理学・工学の全分野における科学者約87万人を内外に代表する機関である。210人の会員と約2,000人の連携会

員によって職務が担われている。

日本学術会議の役割は、主に①政府に対する政策提言、②国際的な活動、③科学者間ネットワークの構築、④科学の役割についての世論啓発である。(日本学術会議ホームページより)

本学の教員も連携会員に選ばれ、その活動に貢献している。

下表は本学の会員加入状況を示すものである。

氏名	職名	専門分野
伊東 昌子	特任教授	臨床医学
稲村 哲也	特任教授	地域研究、環境学
岩永 雅也	副学長	心理学・教育学、社会学
柳原 正治	教授	法学

学会、国、地方自治体等での活動

本学の教員は学識者として、それぞれの専門性を生かし、社会において幅広く活躍している。活躍の場は学会のみならず、国・地方自治体等の様々な組織で活動し、社会の発展に寄与している。以下にその一部を紹介する。

所属	氏名	役職
生活と福祉	下夷 美幸	日本家族社会学会理事、福祉社会学会理事
	山内 豊明	厚生労働省 医道審議会 委員、文部科学省 科学技術・学術政策研究所 科学技術予測センター 専門調査員、日本学術振興会 専門委員、日本医療機能評価機構 医療事故等収集事業 総合評価部会 委員、日本医療機能評価機構 医療事故等収集事業 専門分析班 委員、日本医療機能評価機構 教育研修事業運営委員会 委員、日本医療マネジメント学会 理事、日本臨床看護マネジメント学会 理事、日本看護医療学会 理事、日本看護科学学会 評議員、日本医療の質・安全学会 評議員
	吉村 悦郎	文部科学省高等教育局「教育関係共同利用拠点の認定等に関する審査委員会」委員
	関根 紀子	日本体力医学会、評議員、スポーツ庁 体力・運動能力調査、協力者
心理と教育	岩崎 久美子	千葉県千葉市新基本計画審議会委員、東京都杉並区子ども読書活動推進懇談会委員(座長)、東京都西東京市社会教育委員の会議委員、千葉県千葉市生涯学習審議会委員、教育委員会「点検・評価に関する有識者」(東京都武蔵野市・東京都福生市・千葉県千葉市)、独立行政法人青少年教育振興機構評議員、独立行政法人大学改革支援・学位授与機構国立大学教育研究評価委員会専門委員、千葉大学先端科学センター運営協議会委員、日本教育社会学会編集委員、日本生涯教育学会評議員、フランス教育学会会長、公益財団法人音楽文化創造理事、公益財団法人武蔵野生涯学習振興事業団理事
	小川 正人	文部科学省 第9期中央教育審議会 副会長、同・初等中等教育分科会長、同・学校における働き方改革特別部会長、文部科学省「高校生等への修学支援に関する協力者会議」主査、日本学術振興会専門委員、審査員、等、国立教育政策研究所評議員(評議員会会長)、教科書研究センター理事、目白大学理事・評議員、東京都中央区教育委員会「点検・評価に関する有識者」
	進藤 聡彦	日本教育心理学会代議員、日本教育心理学会常任編集委員、日本教授学習心理学会理事、日本教育心理学会編集委員長、山梨県社会教育委員副委員長、山梨県指導が不適切な教員の認定等に関する審査委員会委員長、甲府市子ども・子育て会議委員長、甲府市小学校学校評議員、甲斐市いじめ防止連携会議議長
社会と産業	児玉 晴男	一般社団法人 企業法学会(日本学術会議協力学術研究団体)理事、一般社団法人 日本機械学会(日本学術会議協力学術研究団体)法工学専門会議 運営委員会 委員
	原田 順子	横浜市物流等関連施設等指定管理者選定評価委員会委員、足立区国民健康保険業務委託事業者選定委員会委員
	松原 隆一郎	内閣府レジリエンス懇談会委員、日本芸術文化振興会評議会委員、杉並芸術会館運営評価委員会座長、毎日新聞書評委員
	柳原 正治	国際法協会日本支部理事・研究企画主任、公益財団法人安達峰一郎記念財団顧問、東アジア国際法秩序研究協議会特別顧問、国連海洋法条約の下での仲裁人・調停人
人間と文化	河原 温	大学評価・学位授与機構、学位審査会専門委員(文学・神学専門委員会、歴史学部会委員)、公益財団法人三菱財団人文科学研究助成委員、西洋中世学会常任委員、第11回大会準備委員長、都市史学会常任委員、メトロポリタン史学会委員
	宮本 陽一郎	筑波アメリカ文学会会長
	広瀬 洋子	一般社団法人全国高等教育障害学生支援協議会監事、日本聴覚障害学生高等教育支援ネットワーク(PEPNet-Japan) 運営委員
情報 自然と環境	加藤 和弘	一般社団法人環境情報科学センター 理事、千代田区生物多様性推進会議 副座長、千代田区ちよだ生物多様性大賞選定委員会 副座長
	宮城学習センター 大淵 憲一	宮城県安全・安心まちづくり委員会 会長、下級裁判所裁判官指名諮問委員会地域委員会 委員
	秋田学習センター 西田 眞	秋田県地方独立行政法人評価委員会 委員長、秋田県自然エネルギー開発協会 会長
	福島学習センター 千葉 悦子	福島県人事委員会委員、福島県男女共生センター館長(非常勤)
	東京足立学習センター 柴 眞理子	舞踊学会理事
	山梨学習センター 平山 公明	山梨県環境保全審議会委員、廃棄物部会長
	三重学習センター 清水 真	有機合成化学協会東海支部常任幹事、中部電気利用基礎研究振興財団理事、四日市市新規産業創出研究会副委員長
	京都学習センター 杉島 敬志	公益財団法人 松下幸之助記念財団理事、学校法人未来学園 平成30年度文部科学省委託事業実施に関わる教育プログラム開発委員会委員、学校法人二本松学院 京都伝統工芸大学校 学校関係者評価委員会委員、学校法人二本松学院 京都建築大学校 学校関係者評価委員会委員
	大阪学習センター 西田 正吾	大阪府立大学監事(非常勤)、システム制御情報学会選挙管理委員会委員長、システム制御情報学会SCI 18 組織委員会委員、奈良先端科学技術大学院大学支援財団支援事業第14期選考委員会委員、ヒューマンインタフェース学会評議員、電子情報通信学会ヒューマンコミュニケーション基礎研究専門委員会顧問、一般財団法人櫻井堂記念会評議員、JST CREST-さきがけ複合領域「デジタルメディア作品の制作を支援する基盤技術」領域連絡評価委員会委員長
	和歌山学習センター 平田 健正	環境省中央環境審議会臨時委員、環境省国内における毒ガスパ弾に関する総合調査検討会検討員、東京都豊洲市場における土壌汚染対策等に関する専門家会議座長
鳥取学習センター 小林 一	厚生労働省・鳥取地方労働審議会委員(委員長)	
香川学習センター 大平 文和	文部科学省微細加工プラットフォーム事業委員、四国能力開発大学校部会委員 座長、かがわ健康関連製品開発地域プロジェクトディレクター、一般財団法人「大西・アオイ記念財団」奨学金給付選考委員	
福岡学習センター 菊川 律子	中央教育審議会委員(生涯学習分科会副分科会長)、福岡県社会教育委員	

社会貢献

一般向け講演会

大学で培われた教育並びに研究の成果を広く社会に提供することは、大学と社会との垣根を取り去り、相互のさらなる発展が期待される。本学の教員は、その専門知識を、講演会を通じて社会に還元している。

以下にその活動の一部を紹介する。

一般向け講演会			
所属	氏名	テーマ	共催等
心理と教育	岩崎久美子	人生100年時代 図書館でどう学び続けるか 人生のマルチステージの学び方	第20回図書館総合展、2018年10月31日 パシフィコ横浜 東京都大田区おおた区民大学、2019年2月16日 大田区消費者生活センター
		中教審の審議と論点	日本教育経営学会第58回大会・公開シンポジウム
	小川 正人	学校における働き方改革：論点と課題	「学校における働き方改革と教育経営学の課題」、鳴門教育大学 2018年6月9日
		学校における働き方改革：論点と課題	宮崎県指導主事等研究協議会 2018年7月6日
		学校における働き方改革の論点と課題	石川県教員総合研修センター・学校経営セミナー（校長対象） 2018年8月1日
		我が国の初等中等教育の成果と未来に求められる教育	静岡県高等学校長協会・秋季研究大会 2018年11月16日
		学校における働き方改革の論点と課題	文部科学省主催・明治150年記念教育シンポジウム 2018年12月19日 文部科学省第一講堂
社会と産業	白鳥潤一郎	外交記録公開制度と戦後日本外交史研究の課題	足立区立小学校長会学校経営研修会 2019年1月22日
	松原 隆一郎	スポーツと脳 ある61歳男性の経験	情報教育対応教員研修全国セミナー 2019年1月26日 大阪 ハービスホール 日本国際政治学会 研究大会
人間と文化	近藤 成一	千葉常胤 63歳で世に出た人	「神経減圧術1000例御礼講演会」川越プリンスホテル、2018年9月2日 千葉常胤生誕九百年記念第2回千葉氏サミット記念講演、 三井ガーデンホテル千葉、2018年5月27日
		古文書から読み解く中世上野のコスモロジー	放送大学群馬学習センター公開講座土曜フォーラム、 放送大学群馬学習センター、2018年6月9日
	杉森 哲也	仏師運慶と近江の荘園	放送大学滋賀学習センター文化祭講演、放送大学滋賀学習センター、2018年11月4日
情報	中谷 多哉子	「織田信長とルイス・フロイス-天下人とイエズス会宣教師の出会いと交流-」	放送大学岐阜学習センター公開講演会、2018年7月14日
		概念モデルから生成する経路に関する意味論の検討	情報処理学会ソフトウェア工学研究会要求工学ワークショップin網走、2019年2月23日
宮城学習センター 福島学習センター	大淵 憲一	概念モデルから横断経路を導出するためのルールの策定	情報処理学会ソフトウェア工学研究会要求工学ワークショップin博多、2018年10月25日
	千葉 悦子	概念モデルに基づくシナリオ自動生成機構の検討	情報処理学会ソフトウェア工学研究会要求工学ワークショップin伊勢、2018年6月14日
三重学習センター	清水 真	正義と公正の心理学	日本心理学会第82回大会招待講演、2018年9月26日、仙台国際センター
		原発事故後の福島から～食と農を再建を模索する避難女性農業者たち	第45回日本技術士全国大会 特別分科会
福岡学習センター	菊川 律子	ふんわり香りの化学	三重県生涯学習センター「みえアカデミックセミナー2018」、2018年8月10日
		薬と香りの世界—有機化学の観点から	三重県生涯学習センター「みえアカデミックセミナー2018移動講座」、2019年1月22日
福岡学習センター	菊川 律子	これからの社会に求められる人材育成	福岡県立学校初任者研修会 2018年11月30日
		学校と地域の連携協働	福岡県教育庁南筑後教育事務所研修会 2018年7月26日

その他社会貢献

所属	氏名	社会貢献内容
心理と教育	小川 正人	朝日新聞(2018年6月10日付朝刊)「インタビュー 重い授業の負担 正規教員増やして」掲載
		朝日新聞(2018年12月24日付朝刊)「インタビュー 教員の働き方改革・答申案狙いは 中教審特別部会長に聞く」掲載
社会と産業	児玉 晴男	知的財産高等裁判所 専門委員(知的財産関係)
	原田 順子	航空自衛隊幹部学校(幹部高級課程)論文指導教官
人間と文化	松原 隆一郎	「中央線文化としてのフリージャズ」松原隆一郎・森山威男・山下洋輔 座高円寺2、2018年9月9日
	稲村 哲也	特別展「マチュピチュ・古代アンデス文明と日本人」の開催(2018年7月28日～9月9日)： 会場：大分県立歴史博物館、主催：放送大学大分学習センター、宇佐市、大分県立歴史博物館
	島内 裕子	「いま、なぜ、古典を読むのか」、桐光学園 大学訪問授業、2018年12月15日
自然と環境	加藤 和弘	東京大学工学部非常勤講師「生態学・生態工学」(12回中7回を分担) 文部科学省科学技術・学術政策研究所科学技術動向研究センター 専門調査員
宮城学習センター	大淵 憲一	宮城県行政書士会研修会講義「ADRの心理学」、2018年9月26日、宮城県行政書士会
		日本法律家協会東北支部講演会「人間の暴力性」、2018年5月29日、仙台国際ホテル 仙台弁護士会ADR仲裁人研修会講義「紛争と葛藤の心理学」、2019年3月27日、仙台弁護士会館
秋田学習センター	西田 真	AKT秋田テレビの「土曜Live!あきた」にコメンテーターとして月1回程度出演。
		ICISIP2018 Best Paper Awardを受賞(論文タイトル:Study of Differences in Individual Behavior Regarding Not-so-good Conditions and Corresponding Changes in Lip Motion while Speaking (T. Takahashi, Y. Kageyama, M. Ishii, M. Nishida, E. Nakamura and K. Fujisawa 2018/9)) ICISIP2018 Best Poster Awardを受賞(論文タイトル:Improvement of Method to Estimate Colors of Amber (H. Ishikawa, Y. Kageyama, C. Ishizawa, T. Takahashi, M. Nishida, H. Shinden, T. Takisawa, T. Koyama and M. Kobushi 2018/9))
福島学習センター	千葉 悦子	日本農村生活学会学術賞受賞 桜の聖母短期大学外部評価委員 第5回福島県女子学生懸賞作文審査委員(委員長)
鳥取学習センター	小林 一	厚生労働省・鳥取地方労働審議会功績表彰(2018年12月)

学習センターの活動、この1年

入学者の集い

4月と10月に、各学習センターで「入学者の集い」を開催した。全国で年間45,585名の学部生と4,705名の大学院生（うち、博士後期課程16名）が入学し、本学における学びへの第一歩を踏み出した。



八戸サテライトスペース



秋田学習センター



山形学習センター



福島学習センター



栃木学習センター



埼玉学習センター



千葉学習センター



東京足立学習センター



神奈川学習センター



新潟学習センター



愛知学習センター



大阪学習センター



兵庫学習センター



和歌山学習センター



鳥取学習センター



島根学習センター



山口学習センター



香川学習センター



愛媛学習センター



高知学習センター



福岡学習センター



佐賀学習センター



熊本学習センター



宮崎学習センター

学習センター

名誉学生への表彰

2010年4月に、本学の全コース(旧:5専攻)すべてを卒業した学生に対して、本学において多年にわたって修学を継続した意欲的な学習者を顕彰する目的で「名誉学生」という制度を設立した。

2018年度は、64名が名誉学生となった。名誉学生の資格を得た者は、3月の学位記授与式で学長表彰された。2018年度第2学期までに表彰された名誉学生

の累積人数は、378名である。

なお、2011年度の表彰より、全コースすべてを卒業したことに加え、人物、学習態度が良好であることが要件となっている。

名誉学生には、本学卒業後も学習センターの各種施設を利用することができる等各種特典を付与している。

新任の学習センター所長

2018年度は12の学習センターで新たに学習センター所長が就任し、学習センターのさらなる充実と発展の為の活動に取り組んでいる。

新任の学習センター所長一覧

山形学習センター	佐藤 圓治(さとう えんじ)	三重学習センター	清水 真(しみず まこと)
福島学習センター	千葉 悦子(ちば えつこ)	京都学習センター	杉島 敬志(すぎしま たかし)
茨城学習センター	佐藤 和夫(さとう かずお)	岡山学習センター	松本 俊郎(まつもと としろう)
東京文京学習センター	林 徹(はやし とおる)	徳島学習センター	石川 榮作(いしかわ えいさく)
石川学習センター	平田 透(ひらた とおる)	佐賀学習センター	滝澤 登(たきさわ のぼる)
愛知学習センター	氏家 達夫(うじいえ たつお)	鹿児島学習センター	住吉 文夫(すみよし ふみお)

学習センターで周年記念式典等を開催

山梨学習センターでは開設30周年、和歌山、徳島、佐賀、鹿児島各学習センターでは開設20周年を迎え、記念講演会では来生学長が講演を行った。式典や講演等を通じ、参加者がふれ合い、学習センターの節目を祝った。

山梨学習センター

来生学長挨拶と記念講演



和歌山学習センター

和歌山学習センター開設20周年記念式典と来生学長の記念公開講演会



徳島学習センター

記念式典での来生学長記念講演と石川所長挨拶



佐賀学習センター

来生学長挨拶と佐賀大学三ツ松先生の記念講演



鹿児島学習センター

来生学長と鹿児島県立図書館原口館長の記念講演



地域に根ざした教育

面接授業

本年度も、多彩な面接授業が各学習センターで3,274科目が開講された。いろいろな学問分野の基礎だけではなく、地域に根ざす様々なテーマに関する授業が、大学教員に加えて各界で活躍する講師が担当して開講され、多数の学生が受講した。

- 青森学習センター「発掘が語る縄文文化」
- 山形学習センター「出羽国の考古学」
- 栃木学習センター「地域をとりまく環境の保全」
- 千葉学習センター「民族文化論」
- 福井学習センター「素描実習・表現の始まりに向けて」
- 愛知学習センター「野外民族博物館で学ぶ文化人類学」
- 滋賀学習センター「ビートルズ英会話」
- 大阪学習センター「住吉大社御田植神事」
- 兵庫学習センター「城郭の歴史と姫路城に学ぶ」
- 奈良学習センター「正倉院と天平美術」
- 和歌山学習センター「熊野古道の交差点 世界遺産の本宮」
- 鳥取学習センター「樹木とキノコ」
- 島根学習センター「地理学から領土問題を考える」
- 山口学習センター「北長門の歴史と民族を学ぶ」
- 香川学習センター「四国遍路」
- 愛媛学習センター「愛媛のライフサイエンス」
- 高知学習センター「対人援助の基礎」
- 佐賀学習センター「新・初歩からのパソコン」
- 熊本学習センター「邪馬台国の時代の「肥後」域」
- 鹿児島学習センター「洋上実習」



青森学習センター
「発掘が語る縄文文化」



山形学習センター
「出羽国の考古学」



栃木学習センター
「地域をとりまく環境の保全」



千葉学習センター
「民族文化論」



福井学習センター
「素描実習・表現の始まりに向けて」



愛知学習センター
「野外民族博物館で学ぶ文化人類学」



滋賀学習センター
「ビートルズ英会話」



大阪学習センター
「住吉大社御田植神事」



兵庫学習センター
「城郭の歴史と姫路城に学ぶ」



奈良学習センター
「正倉院と天平美術」



和歌山学習センター
「熊野古道の交差点 世界遺産の本宮」



鳥取学習センター
「樹木とキノコ」



島根学習センター
「地理学から領土問題を考える」



山口学習センター
「北長門の歴史と民族を学ぶ」



香川学習センター
「四国遍路」



愛媛学習センター
「愛媛のライフサイエンス」

学習センター



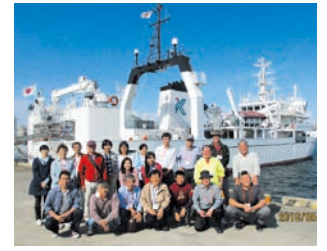
高知学習センター
「対人援助の基礎」



佐賀学習センター
「新・初歩からのパソコン」



熊本学習センター
「邪馬台国の時代の「肥後」域」



鹿児島学習センター
「洋上実習」

集いの場としての学習センター

学習センターでは、学生が勉学活動に利用するだけではなく、サークル活動や様々な共通関心事に関して、学生の交流活動が活発に行われている。学習センターは学生の集う場ともなっている。

サークル・学生活動

学生同士の親睦を深め、学業のみにとどまらない豊かなキャンパスライフを築いてもらうために、放送大学はサークル活動を支援している。サークル活動の中で、年齢やこれまでの人生経験が全く異なる人達と、共通の目的を持って活動することは、素晴らしい体験となるであろう。



青森学習センター
「学生交流観桜会」



秋田学習センター
「さまざま展示会 in きたあきた」



福島学習センター
「福島登山サークル」



茨城学習センター
「群馬SCとの親睦ゴルフ大会」



栃木学習センター
「栃木学習センター友の会夕方カフェ」



埼玉学習センター
「ソーシャルダンスクラブ」



神奈川学習センター
「地域連携チーム ウォーキング馬堀海岸」



新潟学習センター
「心理臨床研修会新潟」



大阪学習センター
「美術部」



和歌山学習センター
「俳句会」



鳥取学習センター
「ノルディックウォーク」



山口学習センター
「卒論修論サークル研究発表会」



高知学習センター
「英語研究会」



熊本学習センター
「合唱愛好会」

文化祭

多くの学習センターでは、文化祭を開催し、学生の学習成果やサークル活動の成果を発表、披露している。文化祭は学生同士の交流の場であると同時に、教職員、そして地域の人々も参加し、交流を深める機会となっている。



青森学習センター
「來生学長との懇談」



埼玉学習センター
「絵手紙作成」



千葉学習センター
「第10回幕張祭」



神奈川学習センター
「フェスタ・ヨコハマ」



新潟学習センター
「バザー」



山梨学習センター
「学園祭作品展」



愛知学習センター
「作品展」



兵庫学習センター
「縄文土器を作ろう」



和歌山学習センター
「きのくに作品展」



鳥取学習センター
「琴」



岡山学習センター
「ハチハチクラブ(太極拳)」



広島学習センター
「作品展」



山口学習センター
「センター祭り」



高知学習センター
「美術展覧会」



熊本学習センター
「特別講演会」



宮崎学習センター
「ひまわりふれあい祭」

学生研修旅行

全国の学習センターでは学生相互及び教職員の交流を図ることを目的として、学生研修旅行を実施している。



青森学習センター
「藤田記念庭園ほか」



秋田学習センター
「岩手県盛岡市方面—原敬生家—」



山形学習センター
「石巻市の日和山にて」



福島学習センター
「安積疎水の歴史をめぐる旅 戸の口十六橋」



茨城学習センター
「北鎌倉・円覚寺」



栃木学習センター
「絵付け体験」



埼玉学習センター
「ポーラ美術館」



千葉学習センター
「城山公園本館」



東京足立学習センター
「サイエンススクエアつくば」



東京多摩学習センター
「奥多摩湖」



神奈川学習センター
「食品リサイクル工場「アルフォ」」



新潟学習センター
「会津の義を知る」



福井学習センター
「国宝瑞龍寺」



山梨学習センター
「信州小布施・善光寺—北斎館にて—」



愛知学習センター
「京都御所にて」



滋賀学習センター
「博物館明治村」



大阪学習センター
「平城宮跡歴史公園」



兵庫学習センター
「出石そば打ち体験」



奈良学習センター
「ダイセル」



和歌山学習センター
「神戸異人館」



鳥取学習センター
「備前長船刀剣博物館」



島根学習センター
「篤姫の宿を訪ねる」



岡山学習センター
「大阪敵塾記念センター」



広島学習センター
「鞆の浦の町並み散策」



山口学習センター
「日本遺産「門司港レトロ建築群」」



香川学習センター
「淡路島 伊弉諾(いざなぎ)神宮」



愛媛学習センター
「マツダミュージアム」



高知学習センター
「倉敷市 大原美術館」



福岡学習センター
「九州大学センターゾーンにて」



佐賀学習センター
「佐賀県農業技術センター」



宮崎学習センター
「宮崎県延岡市「延joyのべおか」」

「大学は歌う」プロジェクトによる、ベートーヴェン第九「歓喜の歌」の合唱

去る2017年3月に南関東ブロック7学習センターが集集して取り組んだベートーヴェン第九「歓喜の歌」の合唱に端を発し、2018年度に発足した「大学は歌う」プロジェクトの集大成として、2019年3月の学位記授与式場で再びベートーヴェン第九「歓喜の歌」の合唱が行われた。

これは、当時の理念でもあった「一回だけのイベントで

はなく、この演奏会を契機として、新しいより豊かな放送大学の学びの在り方」を体現したものである。

今後も、この歌声の輪が全国全てのブロックに広がり、本学一丸となって、広く深く豊かな本学の学習の姿を、社会に向けて発信しつづけるような契機となることを願ってやまない。



NHKホールでの本番



練習風景①



練習風景②

地域と密着する学習センター

学習センターでは、誰でも参加できる公開講演会、公開講座、シンポジウム等を多数開催している。本学学生にかぎらず、地域の人々に役立つ様々な話題について最新の知識が得られ、また、ともに考える機会を提供し

ている。講師は、本学関係者に加えて、それぞれの地域や分野で活躍する多彩な方々をお招きしている。以下は2018年度に開催されたもののほんの一例である。

公開講演会・公開講座

学習センター	題目	講師
北海道学習センター	社会保障制度のお金の流れ-医療費の7割はだれが払う?-	北海道学習センター客員教授・小樽医科大学教授
青森学習センター	津軽の源氏物語-高照神社所蔵「源氏物語之詞」を読み解く	片桐 由喜 久慈 きみ代
岩手学習センター	放送大学新時代企画「学び直しの原点にあるもの」公開講演会「日本の近代彫刻は岩手だ」	岩手大学教授 藁谷 収
宮城学習センター	「偶然と必然-貝と進化」	東北大学東北アジア研究センター 地域生態系研究分野教授 千葉 聡
秋田学習センター	「秋田の食文化のゆくえ」-郷土食と甘味嗜好の地域差と経年変化-	秋田学習センター客員教授 佐々木 信子
山形学習センター	山形県インバウンド観光の動向について	山形学習センター客員教授 下平 裕之
福島学習センター	嫗(おうな)の文化史-老いの性差を考える-	福島学習センター客員教授 野澤 謙治
茨城学習センター	「チバニアン」と地磁気逆転	茨城大学理学部教授 岡田 誠
栃木学習センター	人工知能(AI)の正しい理解と今後の課題-一人の意思決定の9割は「気分」で決まる-	工学院大学名誉教授 椎塚 久雄
群馬学習センター	古文書から読み解く中世上野のコスモロジー	放送大学教授 近藤 成一
埼玉学習センター	いのちを考える-バイオエシックス(生命倫理)を手がかりに-	早稲田大学名誉教授 木村 利人
千葉学習センター	シンポジウム 日本人と第九	千葉大学教授 山本 純ノ介 埼玉学習センター客員教授 茂木 一衛 奈良教育大学名誉教授 安田 寛 神戸大学名誉教授 岩井 正浩 千葉学習センター所長 宮野 モモ子
東京文京学習センター	現代物理学の発展とその功績者たち	東京文京学習センター客員教員 菅本 晶夫
東京足立学習センター	大仏の来た道 -インドから日本へ-	東京足立学習センター客員教授 秋山 光文
東京多摩学習センター	日本人の自尊感情 -文化心理学・発達心理学の視点から-	放送大学教授 向田 久美子
東京渋谷学習センター	大学教育におけるICT活用~日本とアメリカと中国の実例~	放送大学教授 苑 復傑
神奈川学習センター	意味のないことばの意味:付録 心理学と行動科学	神奈川学習センター客員教授 林部 英雄
新潟学習センター	A HISTORY OF JAZZ	クラリネットプレーヤー 花岡 詠二
富山学習センター	八尾のおわらと米騒動	富山大学人間発達科学部教授 根岸 秀行
石川学習センター	地域の知を活かす~地域からのソーシャル・イノベーションを考える~	石川学習センター所長 平田 透
福井学習センター	地図で読み解く越前の城下町	京都大学大学院人間・環境学研究所准教授 山村 亜希
山梨学習センター	「和食」の特徴と山梨の家庭料理	山梨大学教授 時友 裕紀子
長野学習センター	「遠くて近い...武術と舞踊の刺激的な関係」	信州大学准教授 北村 明子
岐阜学習センター	美しい地球を未来に~私たちは今、何をすべきか~	岐阜薬科大学学長 稲垣 隆司
静岡学習センター	ユネスコ世界ジオパークとして伊豆半島ジオパークに求められるもの	伊豆半島ジオパーク推進協議会 専任研究員 朝日 克彦
愛知学習センター	災害と発達心理学	愛知学習センター所長 氏家 達夫
三重学習センター	フランスはどのように中国を知ったか -バルザックの小説を手がかりにして-	大阪大学名誉教授 柏木 隆雄
滋賀学習センター	恋歌の世界 - まちがいだらけの百人一首 -	滋賀学習センター所長 吉川 栄治
京都学習センター	中高年期を幸せに生きる知恵 - 認知科学者、臨床心理学者が語る-	京都大学総合生存学館教授 積山 薫 東洋英和女学院大学教授 前川 美行 京都大学こころの未来研究センター教授 吉川 左紀子
大阪学習センター	AIはどこまで人間に近づけたのか	前放送大学長 岡部 洋一
兵庫学習センター	「どうなる日本の経済:気になるニュースを斬る」	兵庫学習センター客員教授 滝川 好夫
奈良学習センター	地域包括ケアシステムはみんなのまちづくり	放送大学教授 田城 孝雄
和歌山学習センター	日本人と海 -日本は真の海洋国家足りうるか-	生駒市健康福祉部次長 田中 明美
鳥取学習センター	~放送大学新時代~公開講演会「がん(癌)は予防できる!?!」	放送大学長 来生 新
島根学習センター	美術に親しむVロートレックの面影を追って	鳥取大学医学部部長 廣岡 保明
岡山学習センター	自伝的記憶-懐かしい思い出の心理学-	島根学習センター所長 佐々 有生
広島学習センター	平成30年7月豪雨災害の要因と対策	岡山学習センター客員教授 堀内 孝
山口学習センター	雪舟《山水図巻》の謎	広島大学大学院工学研究科教授 河原 能久
徳島学習センター	板東俘虜収容所-ドイツ俘虜たちとベートーヴェン「第九」-	相国寺承天閣美術館副館長・学芸統括 高橋 範子
香川学習センター	四国の大名	山口県立美術館学芸員・普及課長 荻開津 通彦
愛媛学習センター	機械は「考える」ことができるか-人口知能を理解する-(9)	徳島学習センター所長 石川 栄作
高知学習センター	日本人と海-坂本龍馬・岩崎弥太郎の夢と21世紀の海洋国家日本の船出-	愛媛大学法文学部教授 胡 光
福岡学習センター	蒙古襲来と神風	愛媛学習センター所長 村上 研二
佐賀学習センター	「キャッシュレス」で何が変わる?	放送大学長 来生 新
長崎学習センター	季節を巡る音楽	九州大学名誉教授 服部 英雄
熊本学習センター	人間性の探究-正義という「理想」-	佐賀大学准教授 羽石 寛志
大分学習センター	マチュピチュとアンデス文明	長崎大学教育学部教授 堀内 伊吹
宮崎学習センター	様々な映像技術の動向と今後の展望	熊本学習センター所長 岡部 勉
鹿児島学習センター	教育と通信制度~高等教育における教養教育、職業教育の歴史とメディア~	放送大学教授 稲村 哲也
沖縄学習センター	「女性の働き方、学び方を考える-男女共同参画社会のこれからを見据えて-」	宮崎学習センター客員教員・宮崎大学工学部准教授 坂本 真人
		放送大学長 来生 新
		国立女性教育会館研究国際室長 中野 洋恵
		沖縄ツーリスト株式会社代表取締役会長 東 良和
		株式会社クルピジョン代表 宮平 貴子
		沖縄県女性の翼会長 鈴木 啓子
		放送大学沖縄学習センター客員准教授 藏根 美智子

データで見る 放送大学の概要

■ 役職員数 [単位:人]

役員	6	※1
学長	1	
副学長	3	※2
教員	88	
事務職員	246	
合計	342	※3

(2019年3月31日現在)

※1 学長(理事)、副学長(理事)を含む。非常勤を除く。

※2 副学長(理事)を含む。

※3 重複があるため合計は一致しない。

■ 在学生数 [単位:人]

教養学部

全科履修生	56,084
選科履修生	17,252
科目履修生	6,826
特別聴講学生(学部)	3,448
合計	83,610

(2018年度第2学期)

大学院

修士全科生	1,046
修士選科生	3,315
修士科目生	579
修士特別聴講学生	11
博士全科生	54
合計	5,005

(2018年度第2学期)

集中科目履修生

学校図書館司書教諭講習	790
看護師資格取得に資する科目	531
合計	1,321

(2018年度)

(注)特別聴講学生とは、他の大学等の学生で当該大学等と放送大学との協定に基づき、本学において科目の履修を行っている学生です。

■ 単位互換協定締結校数 [単位:校]

学校の種類	校数
大学院	8
大学	290
短期大学	86
高等専門学校	15
合計	399

(2019年3月31日現在)

■ 入学者数 [単位:人]

教養学部

	1学期	2学期	合計
全科履修生	6,917	3,775	10,692
選科履修生	11,067	6,137	17,204
科目履修生	6,167	6,826	12,993
特別聴講学生(学部)	1,248	3,448	4,696
合計	25,399	20,186	45,585

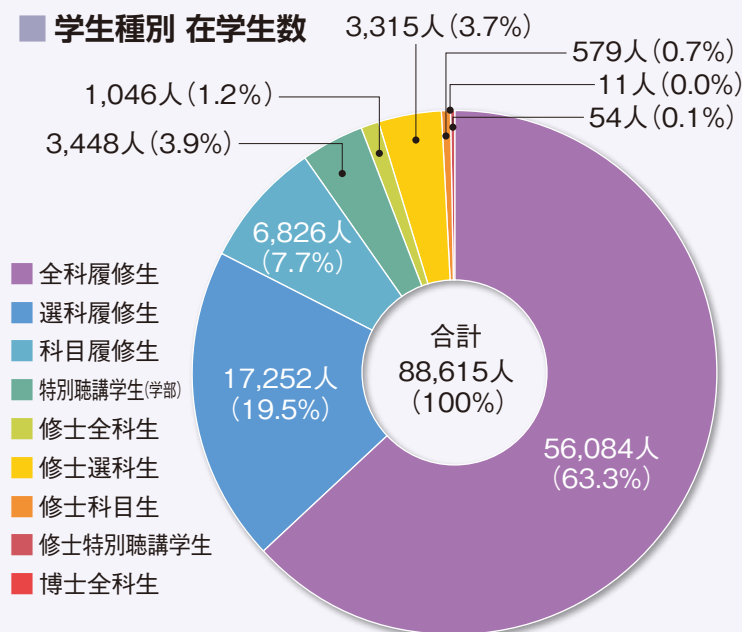
(2018年度)

大学院

	1学期	2学期	合計
修士全科生	359	—	359
修士選科生	2,334	935	3,269
修士科目生	464	579	1,043
修士特別聴講学生	7	11	18
博士全科生	16	—	16
合計	3,180	1,525	4,705

(2018年度)

■ 学生種別 在学生数



■ 学部卒業者数 [単位:人]

1学期	2学期	合計	累計
2,351	3,637	5,988	106,203

(2018年度)

■ 大学院修士課程修了者数 [単位:人]

1学期	2学期	合計	累計
5	324	329	5,864

(2018年度)

■ 大学院博士後期課程修了者数 [単位:人]

1学期	2学期	合計	累計
—	7	7	15

(2018年度)



〒261-8586 千葉県美浜区若葉 2-11
TEL:043-276-5111(総合受付)
<https://www.ouj.ac.jp/>